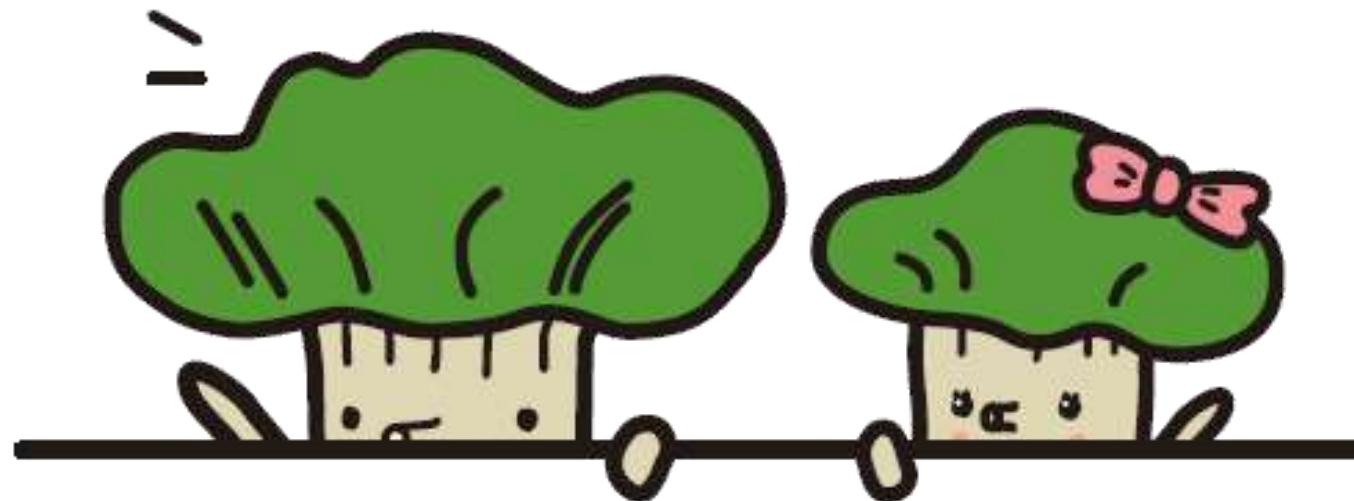


2026年3月期 第2四半期（中間期）決算  
決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する  
荒川化学工業株式会社

2025.12.2

代表取締役社長執行役員 高木 信之 / 常務取締役執行役員 延廣 徹 / 取締役執行役員 富宅 伸幸

# 目次

1 決算概況と通期予想

2 セグメント別情報

3 サステイナビリティへの取り組み

参考資料

# 1

## 決算概況と通期予想

# 2025年度上期の実績

(百万円)

	2024年度 上期	2025年度 上期予想	2025年度 上期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	39,327	41,000	40,367	1,040	2.6%
営業利益	313	900	929	616	196.0%
経常利益	313	700	639	326	103.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,634	600	724	△910	△55.7%
EBITDA	3,023	3,600	3,639	616	20.4%

## 25年度上期 実績

- 電子部品等の需要回復やデータセンター関連材料の需要増で**增收増益**
- 光硬化型樹脂、ファインケミカル製品、ハードディスク用精密研磨剤の**販売が好調**
- EBITDAは過去最高水準。生産能力増強投資も一巡し投資回収フェーズに

為替レート	2024年度上期実績	2025年度上期実績	2025年度（想定）
USD	154.06円	147.48円	150.00円
EUR	166.12円	162.24円	160.00円
RMB	21.25円	20.34円	21.00円

- 2025年度上期：2025年4月～2025年9月の累計
- EBITDA：償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

# 連結業績と通期予想

(百万円)

上段：百万円 下段：増減率	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 通期予想
売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000
	14.1%	△1.3%	△9.1%	11.1%	5.9%
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	854	2,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,644	1,800
EBITDA	6,500	1,569	3,190	6,778	8,300
	1.2%	△75.9%	103.3%	112.4%	22.4%
ROE	2.6%	△8.7%	△1.9%	4.6%	3.0%
配当	48円	48円	48円	49円	50円

25年度通期  
予想

- ・期初予想から変更なく、前期比增收増益を見込む
- ・製紙・環境事業は減益拡大も機能性コーティング事業は上期実績を踏まえ、下期も一層の伸びを期待し、前期比大幅増益に上方修正

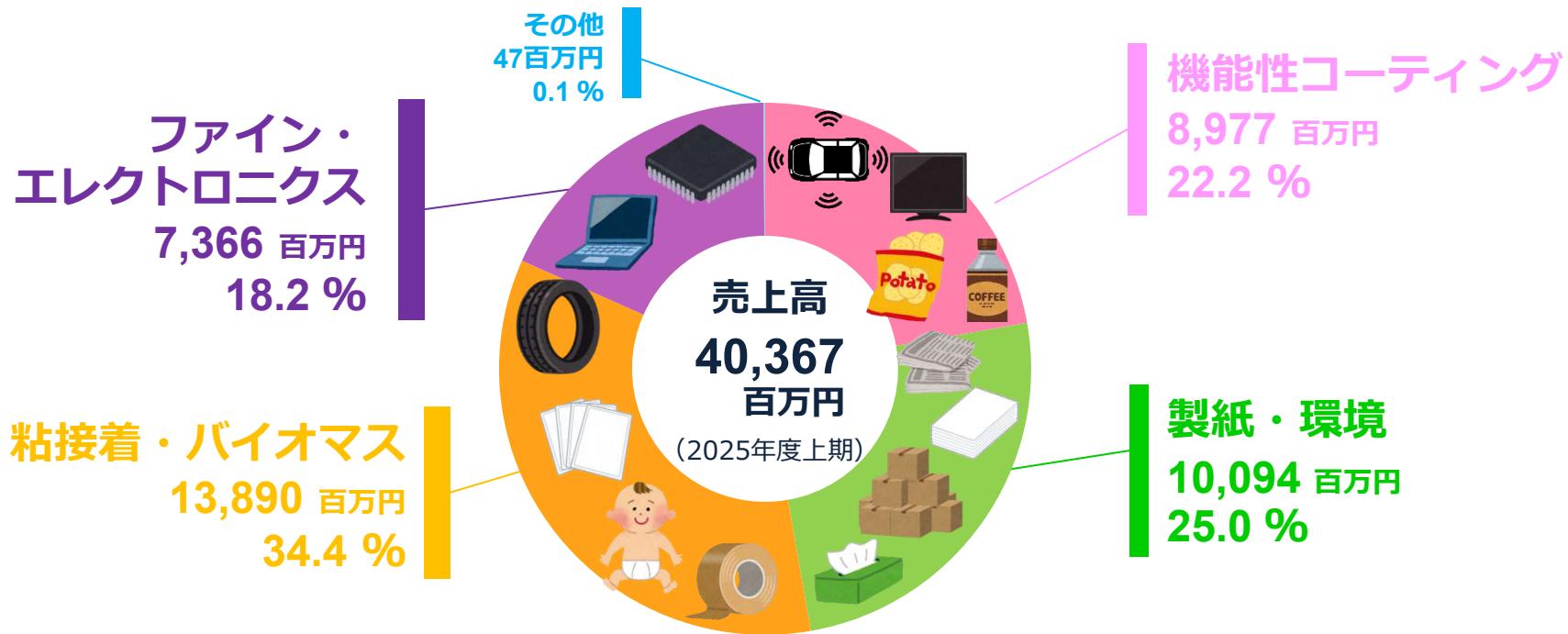
【2024年度 実績】①USD/JPY152.24 ② EUR/JPY164.36 ③ RMB/JPY21.12

【2025年度 想定】①USD/JPY150.00 ② EUR/JPY160.00 ③ RMB/JPY21.00

2

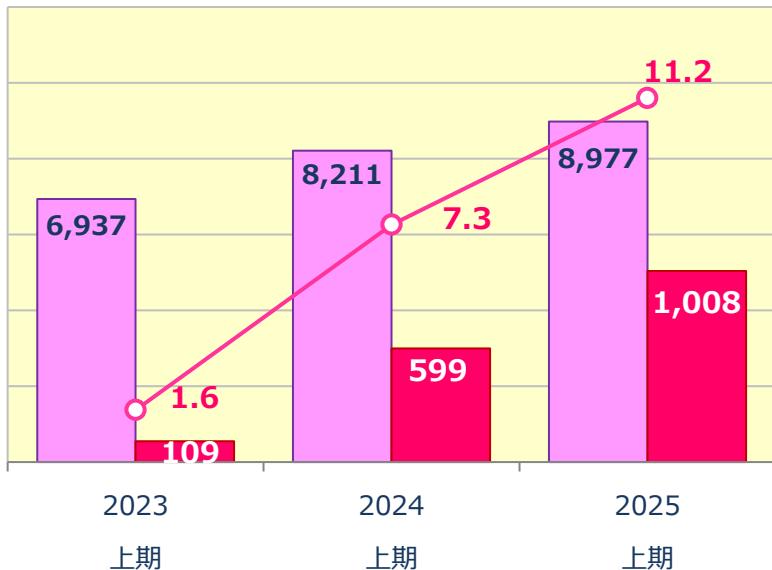
## セグメント別情報

# セグメント別売上高



機能性コーティング	光硬化型樹脂、熱硬化型樹脂、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂 等
製紙・環境	紙力増強剤、サイズ剤、新規水系ポリマー 等
粘接着・バイオマス	水素化石油樹脂、粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン、合成ゴム重合用乳化剤 等
ファイン・エレクトロニクス	精密部品洗浄剤および洗浄装置、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル製品、電子材料用配合製品、精密研磨剤 等

■ 売上高 ■ セグメント利益 ●○ 利益率（%）（百万円）



## 2025年度上期実績

■ 光硬化型樹脂はスマートフォンやディスプレイ関連分野での需要回復が進み、販売は前年同期を上回る

## 2025年度見通し

■ 主力製品である光硬化型樹脂の販売は、一層の伸びが期待できる  
「そだてる」ミッションに位置付けている  
熱硬化型樹脂の拡販も見込む



## 中長期的戦略

■ 高機能製品群がさらなる収益ドライバー  
■ 強固な事業基盤構築による拡大・採算性の向上

# 光硬化型樹脂 (ビームセット・オプスター)



: サスティナビリティ製品

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減 (VOC削減)
- 事業領域：スマートフォンなどのディスプレイのハードコーティング材料、光学粘着剤、帯電防止コーティング剤、IC（集積回路）、電子部材
- 事業環境：世界のスマートフォン（5G対応）の出荷台数は2030年には15億6,941万台まで拡大する見通し  
(総務省 令和7年版 情報通信白書)
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に
- 生産能力増強：富士工場の新設備 顧客認証・下期量産化予定



売上高  
(百万円)

10,000

7,500

5,000

2,500

0

2021

2022

2023

2024

2025  
(予想)

需要増加で過去最高

上期実績



■ 売上高 ■ セグメント利益 ● 利益率 (%) (百万円)



## 2025年度上期実績

- 板紙向け紙力増強剤は、国内での需要減少や海外（中国、アジア地域）での価格競争激化により、収益を押し下げた

## 2025年度見通し

- 海外（中国、アジア地域）での価格競争は厳しさが続く見込み



## 中長期的戦略

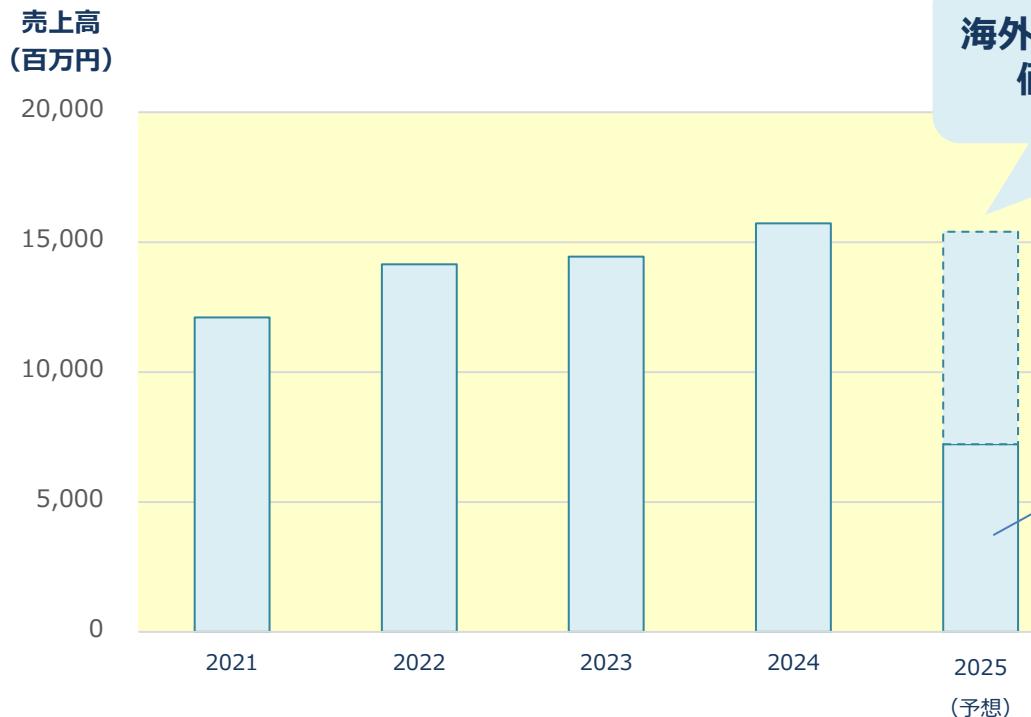
- 国内：需要減に対応し、品種と生産拠点の統廃合による収益性改善
- 海外：リサイクル促進に対応した紙力増強剤の地域拡大

# 紙力増強剤（ポリストロン）

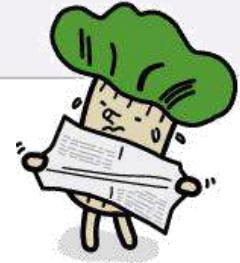


：サスティナビリティ製品

- パルプ纖維同士をつなぎ、紙の力を向上させる
- ポリアクリルアミド（PAM）系紙力増強剤の拡大  
⇒販売地域を中国・台湾からASEANに拡大し、古紙リサイクル促進に貢献
- 荒川ケミカルベトナム社が2022年3月に稼働し、ベトナムを中心にASEAN向けで利益貢献



海外（中国、アジア地域）での  
価格競争は厳しさが続く

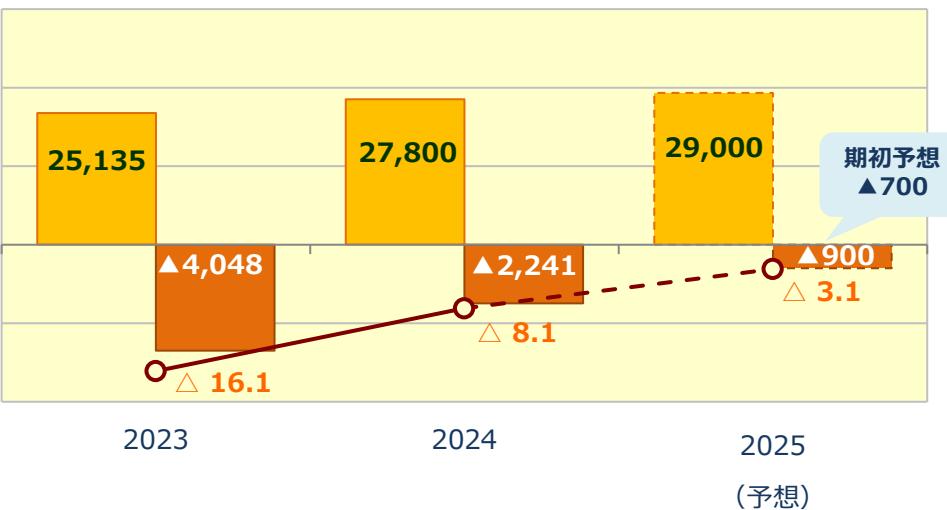
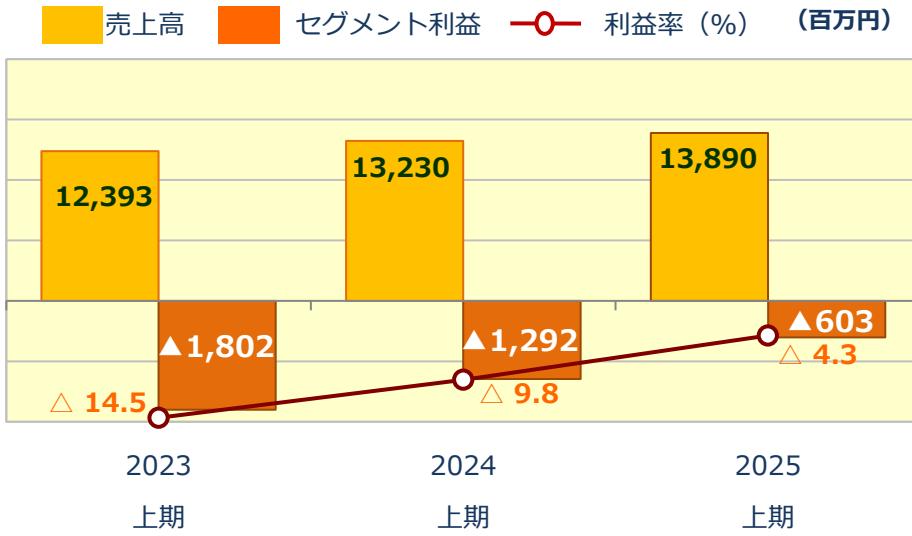


上期実績

- 板紙向け紙力増強剤  
⇒段ボールの薄型化に対応
- 上質紙・コート原紙等の洋紙  
まで幅広い用途に使用



# 粘接着・バイオマス事業



## 2025年度上期実績

- ロジン系の粘着・接着剤用樹脂は、アジア地域を中心に販売が堅調に推移
- 水素化石油樹脂は、千葉アルコン製造(株)の稼働率が改善し、欧州向けに安定的な供給を開始

## 2025年度見通し

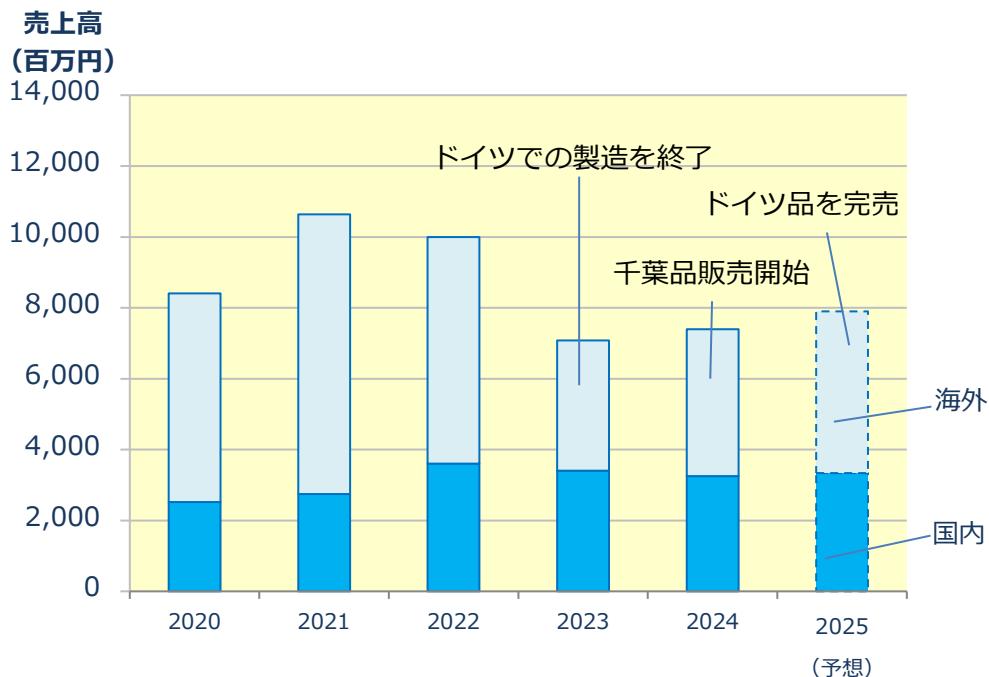
- 千葉アルコン製造(株)の上期の稼働を鑑み、セグメント損失のみ下方修正

## 中長期的戦略

- アルコン：C9留分ベースの特徴と品揃えの多さを活かし、高付加価値用途での拡販を推進
- ロジン：「Global Pine Chemicals Partner」への深化、松脂資源と関連事業の持続性を確保

# 水素化石油樹脂（アルコン）

- グローバル需要は人口増加や経済成長に伴い今後も拡大が見込まれる
- 千葉アルコン製造株の稼働率（稼働日数）は6割（前年同期3割）に改善し、欧州向けに安定的な供給を開始。来年1月から実施する定修で、稼働率と運転速度の改善に取り組む
- 2026年度の稼働は7～8割、2027年度にフル稼働を目指す
- 中国で新增設が相次ぎ、汎用品は供給過剰だが、C9留分の特徴を活かし、医療用貼付剤やプラスチック改質用途などで展開



▼水素化石油樹脂「アルコン」（1965年上市）  
無色無臭の白物樹脂として世界で初めて工業化に成功



- 医療用貼付剤
- フィルム改質向けの高付加価値用途

# 増収減益

# ファイン・エレクトロニクス事業

■ 売上高 ■ セグメント利益 —○— 利益率（%）（百万円）



## 2025年度上期実績

### ■ ファインケミカル製品とハードディスク用

精密研磨剤の販売は過去最高水準を維持

### 2025年度見通し

■ 半導体市況の回復やデータセンター投資が活況であることから、  
売上高は上方修正、セグメント利益は上期までの実績を踏まえて、下方修正

## 中長期的戦略

■ データセンターや半導体関連市場の将来の需要増加に素早く連携・対応し、事業のさらなる拡大

# ファインケミカル製品

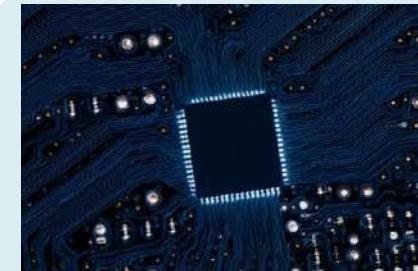
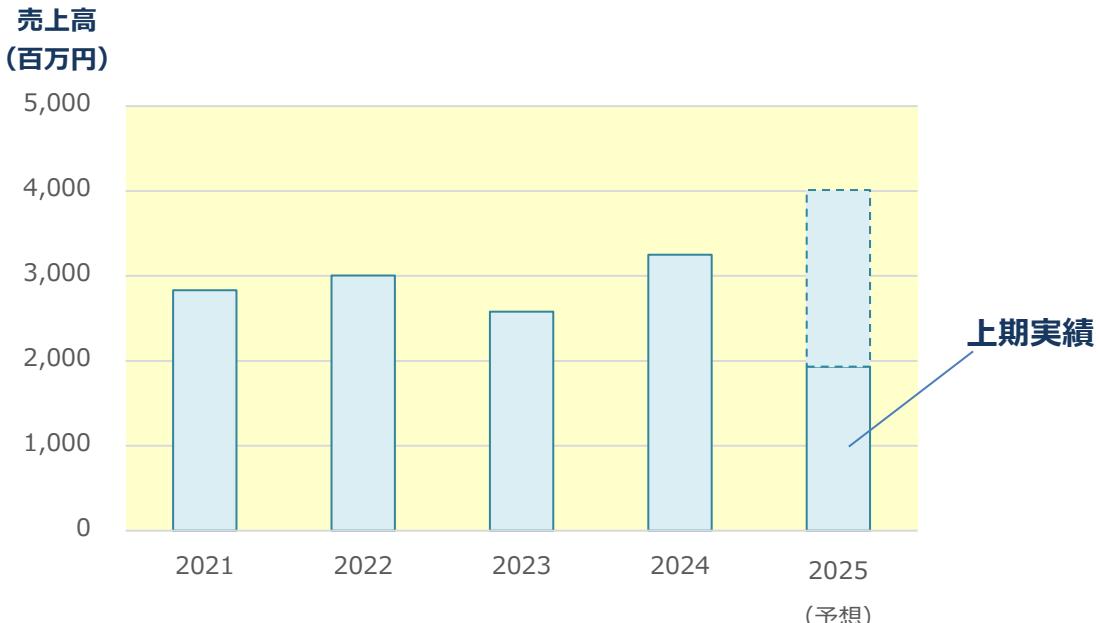


高压化学工業



:一部サステナビリティ製品あり

- ファインケミカル製品(中間素材)を高度な品質管理体制下で受託製造
- 事業領域 : データセンター、半導体、IC (集積回路) 、生成AI、電子部材
- 事業環境 : 半導体の世界市場は2030年に**1兆ドル（150兆円）**に到達する見通し  
(米マッキンゼー・アンド・カンパニー)
- 耐腐食性高圧反応設備 (ハステロイ製) で高付加価値化
- 水島工場に半導体関連材料の生産設備完工、認証取得後、来年度後半からの量産化予定

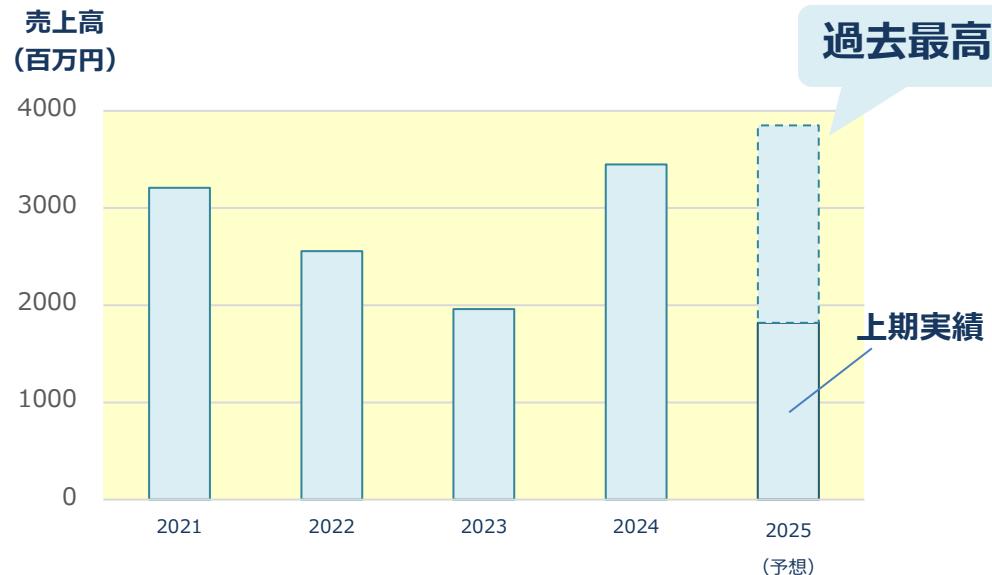


■ 半導体関連先端材料

# 精密研磨剤 (Neopolish)

## 山口精研工業

- ハードディスク (HDD) 用アルミ基板を中心に鏡面研磨剤を開発
- 事業領域 : HDD、SAWフィルター用ウエハー、パワー半導体、ブルーガラス等
- 事業環境 : データセンターの世界市場は、2029年に6,241億ドルに到達する見通し  
(総務省 令和7年版 情報通信白書)  
データセンターの建設が増え、データ保存に使われるHDDの需要が引き続き増
- 生産能力増強 : 需要増加に備え、2023年11月第2工場完工

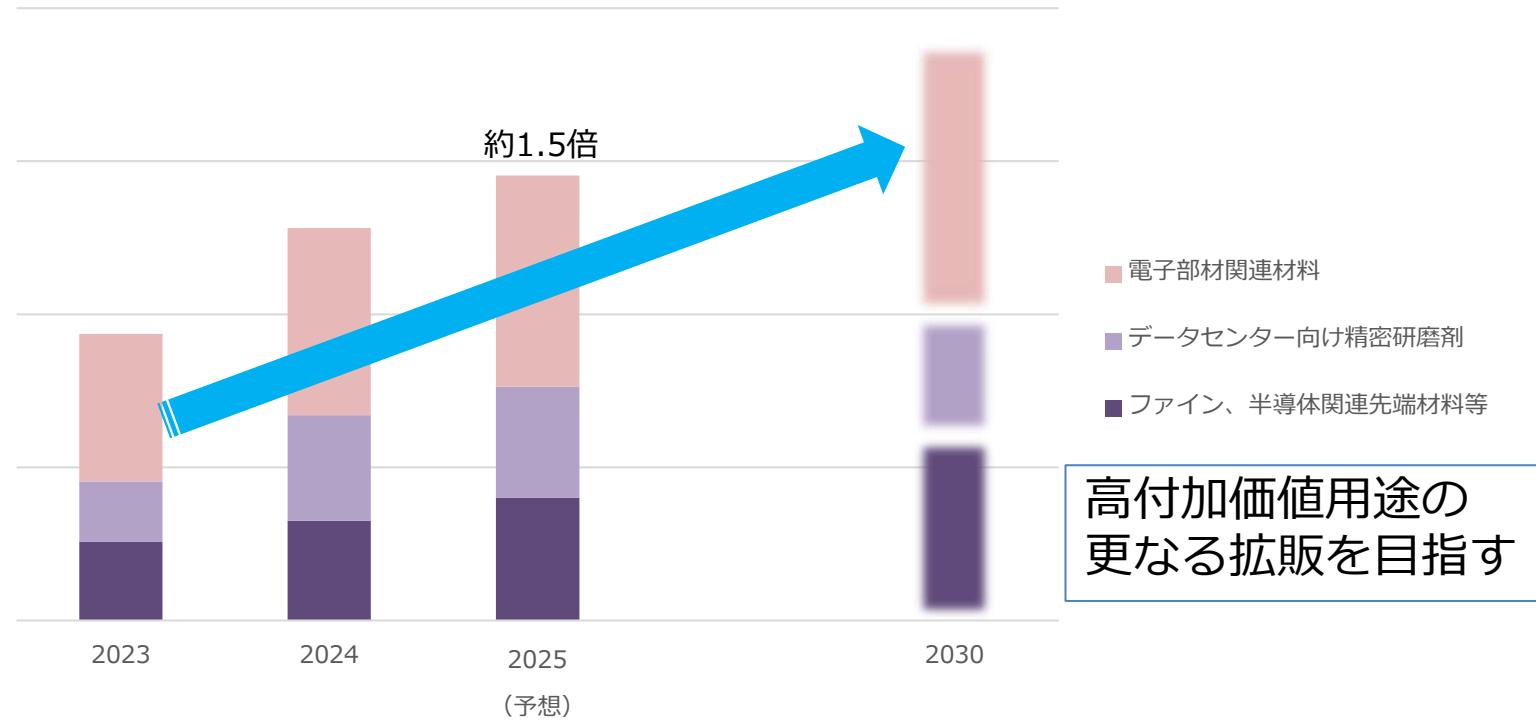


第2工場 外観



# 生成AI市場と当社製品の関わり

電子部材、データセンター、半導体関連先端材料等の売上種別



## ファイン・エレクトロニクス事業 水島工場



半導体関連  
先端材料

## ファイン・エレクトロニクス事業 山口精研工業



HDD用

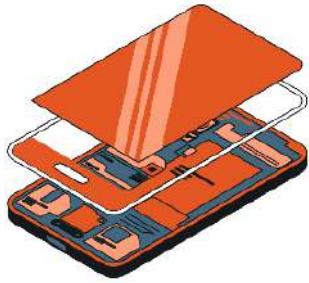
## 機能性コーティング事業 富士工場



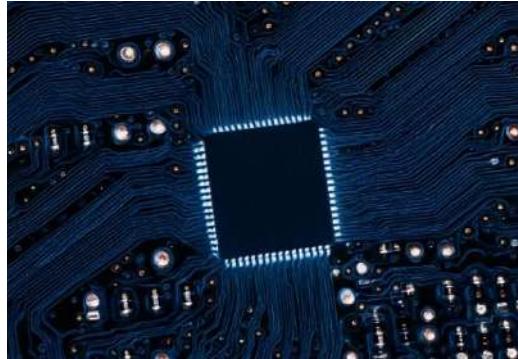
電子部品の工程部材  
ディスプレイ用

# 先端分野における当社製品の使用事例

伸長著しいデータセンター・半導体関連先端材料等に当社製品が使用されています！



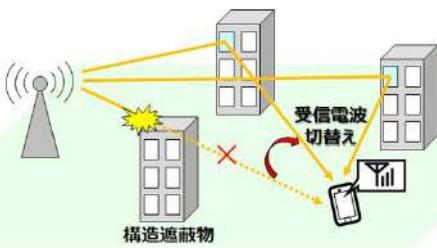
電子部材



半導体関連先端材料



データセンター



5G周辺材料



生成AI



ファインケミカル製品

光硬化型樹脂 電子材料用配合製品



熱硬化型樹脂 ハードディスク用精密研磨剤

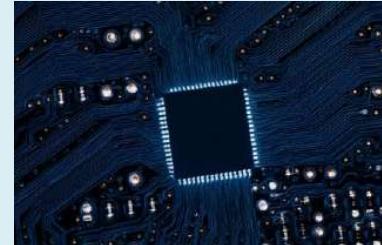
低誘電基板材料

各種基板用研磨剤



スマホ  
フォルダブルスマート

# 先端分野における当社製品の使用事例

当社製品	最終製品
<p><b>(HDD用) 精密研磨剤</b></p> <p>【事業領域】 ハードディスク、SAWフィルター用ウエハー、パワー半導体、ブルーガラス等 【事業環境】 データセンターの世界市場は、2029年に6,241億ドルに到達する見通し (総務省 令和7年版 情報通信白書)</p>	
<p><b>(先端半導体用) ファインケミカル製品</b></p> <p>【事業領域】 データセンター、半導体、IC（集積回路）、生成AI、電子部材 【事業環境】 半導体の世界市場は2030年に1兆ドル（150兆円）に到達する見通し (米マッキンゼー・アンド・カンパニー)</p>	
<p><b>(デジタルデバイス用) 機能性コーティング剤 (工程部材用) 光硬化型樹脂 熱硬化型樹脂</b></p> <p>【事業領域】 スマートフォンなどのディスプレイのハードコーティング材料、 光学粘着剤、帯電防止コーティング剤、IC（集積回路）、電子部材 【事業環境】 世界のスマートフォン（5G対応）の出荷台数は2030年には15億6,941万台 まで拡大する見通し (総務省 令和7年版 情報通信白書)</p>	

# 重点課題の進捗① 新規事業関連（水系）

水系ポリマー技術関連

PFAS規制対応によるフッ素代替材料需要が急務！

脱プラ

脱フッ素

環境面×健康面

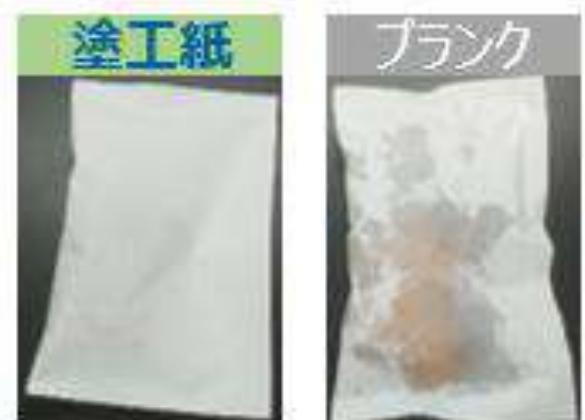
水系機能性材料



紙包材用途



AWシリーズの応用例



外面に油染みない、手が汚れない！

コーティングタイプ

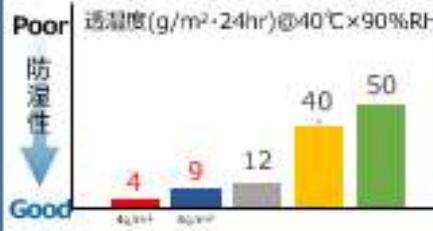
AW-500タイプ

- ✓水蒸気バリア性
- ✓スチレン・塩素フリー

■ AW-540/PET ■ AW-540/紙

■ キッチンラップ ■ PEラミネート紙

■ 防湿紙



添加剤（内添）タイプ

AW-600タイプ

- ✓端面耐油性の改善
- ✓通気性と耐油性を両立

無添加(0wt%) AW-600(3wt%)

1min 1hr 1day

&lt;p

# 重点課題の進歩②新規事業関連（微細藻類）

## 微細藻類事業への参入



### 微細藻乾燥粉末「AURA'n(オーラン)」

大阪工場

微細藻培養用パイロットプラント完工（2025年7月）

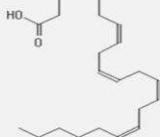
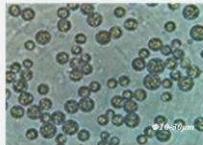
大量・商業生産の早期実現と微細藻類を使用した商品／システムの開発によるライフサイエンス分野の市場開拓

オーランチオキトリウム

沖縄やんばる産  
DPA（ドコサペンタエン酸）  
DHA（ドコサヘキサンエン酸）  
を豊富に含む材料

$\omega-6$  DPA

DocosaPentaenoic Acid  
 $C_{22:5}\ n-6$   $C_{22}H_{34}O_2$

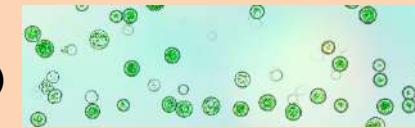


温活Foods  
【MISO CUBE】を販売開始  
(2025年2月)



サプリメント  
【samugarisan】：機能性表示  
【Ryukyuシリーズ3種】  
同時販売開始（2025年9月）

温泉に生息する微細藻類  
*Galdieria*（ガルディエリア）



- ・圧倒的に効率の良い培養能力
- ・高温・高酸性といった極限環境下でも生育可能
- ・細胞表面には貴金属を選択的に吸着する能力

高効率  
培養技術



都市鉱山向け  
貴金属吸着剤

現在捨てられている都市鉱山廃液から  
貴金属を取り出す仕組みを提供し、  
リサイクル率を向上する

天然鉱山向け  
金吸着剤

安価で島嶼地の食品、化粧品原料、医薬品成分を提供し、食糧問題の  
解決、健康増進に寄与する

世界各地にある  
ASGM（小規模天然鉱山）から  
有害物質（水銀・青銅化合物）を放逐する

# 重点課題の進捗③ 新規事業関連（マツ）

マツ資源の機能の深堀

## 松葉抽出物の新たな可能性！論文公開



PRTIMES記事へリンク

松葉抽出物がうつ病様症状を改善！

アペリン経路の活性化による神経保護作用と神経伝達物質の調整メカニズムを初解明

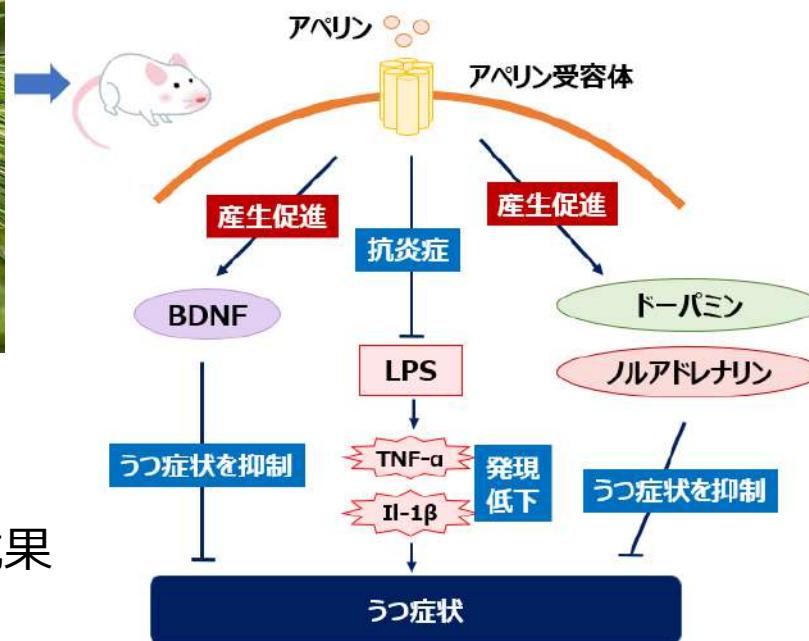


松葉抽出物

筑波大学発ベンチャー

MED R&D株式会社との共同研究成果

<https://www.med-rnd.com/>

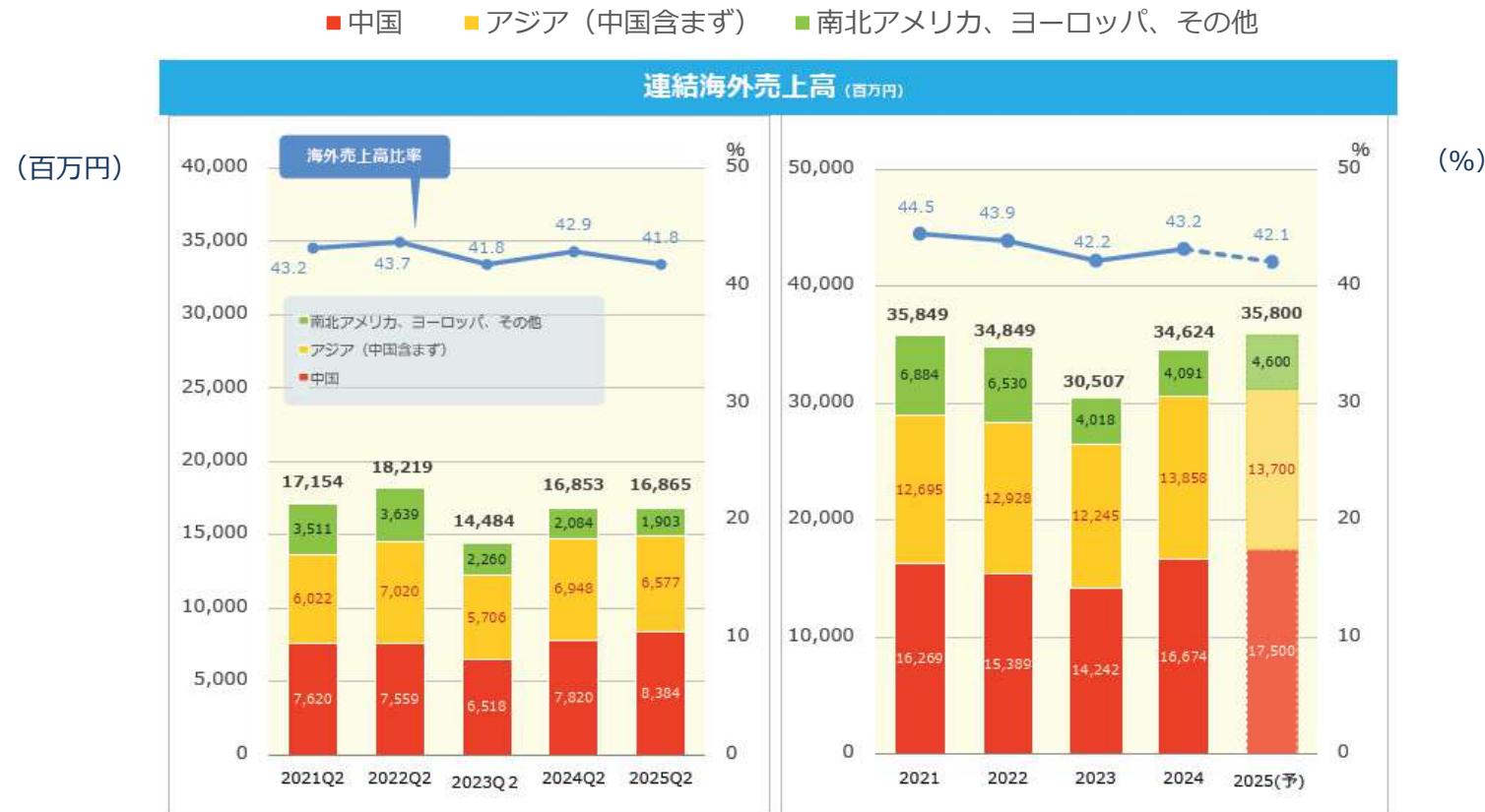


心身の健康に貢献する革新的なソリューションの提供

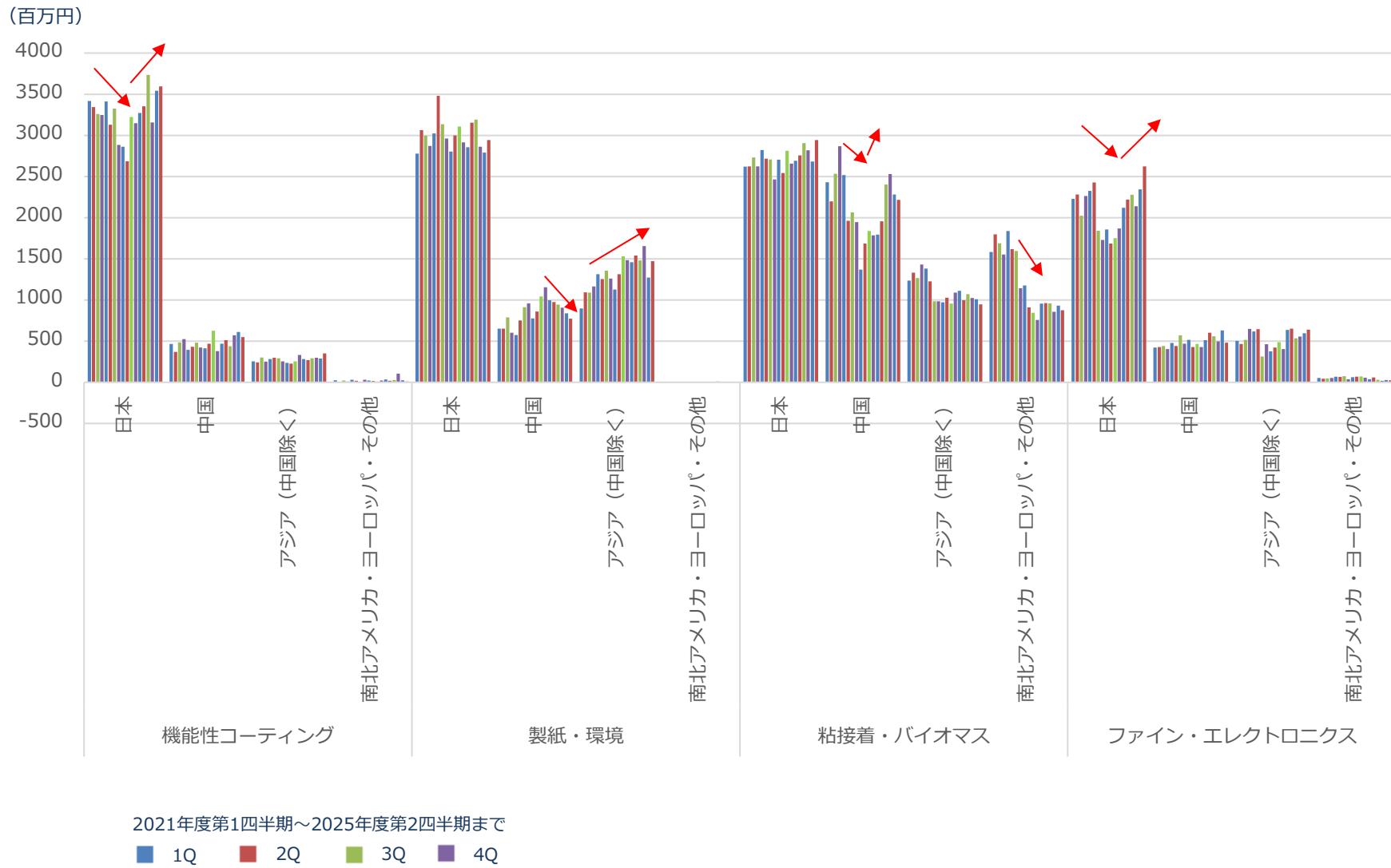
# 海外売上高・比率 推移

## 2025年度見通し

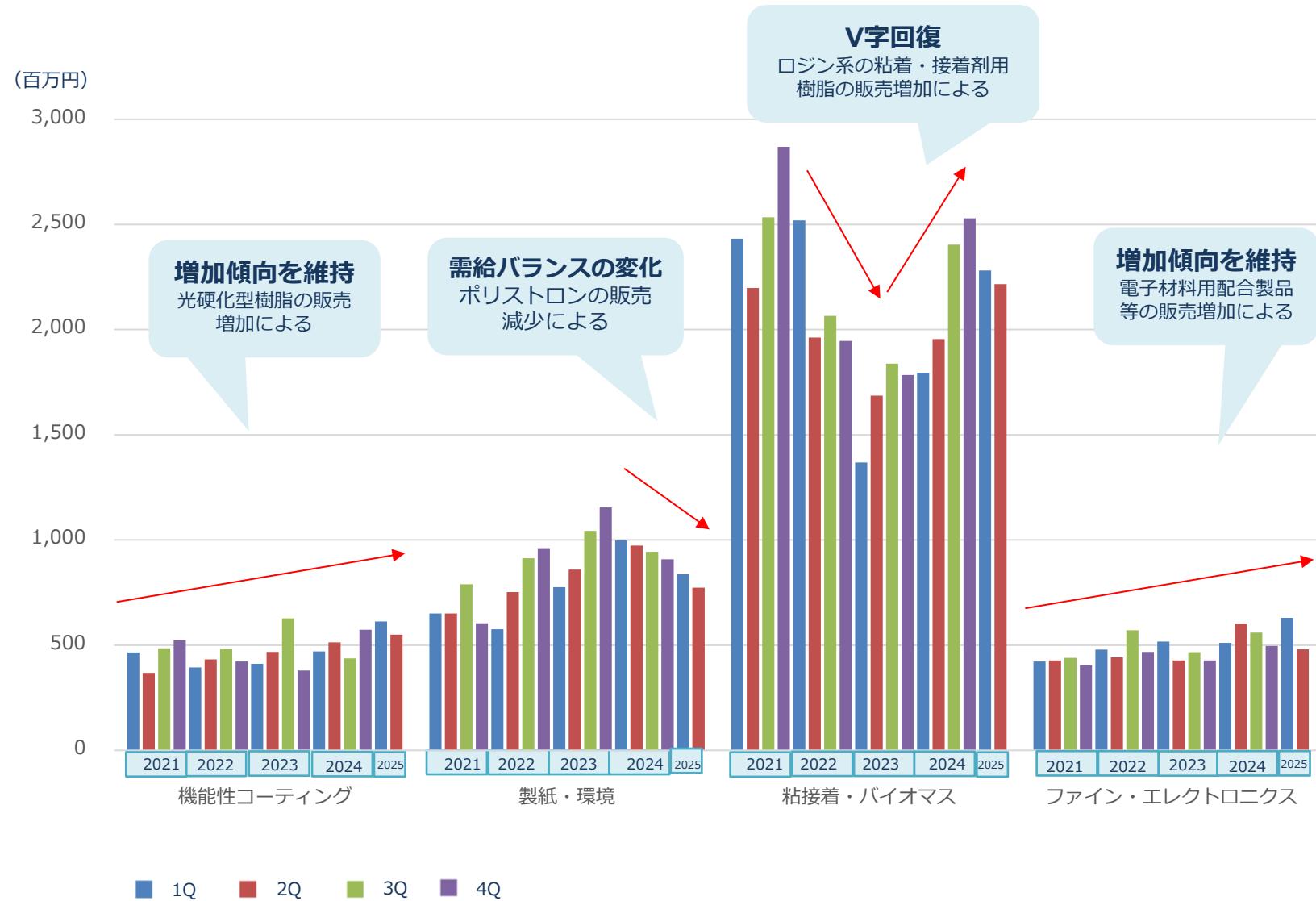
- 中国ではロジン系粘着・接着剤用樹脂の需要が堅調に推移する見込んでおり、海外売上高の比率は42.1%となる見込み
- 25年度通期予想は、24年度実績と比べ、約12億円増加となる見込み



# セグメント別地域別売上高四半期推移



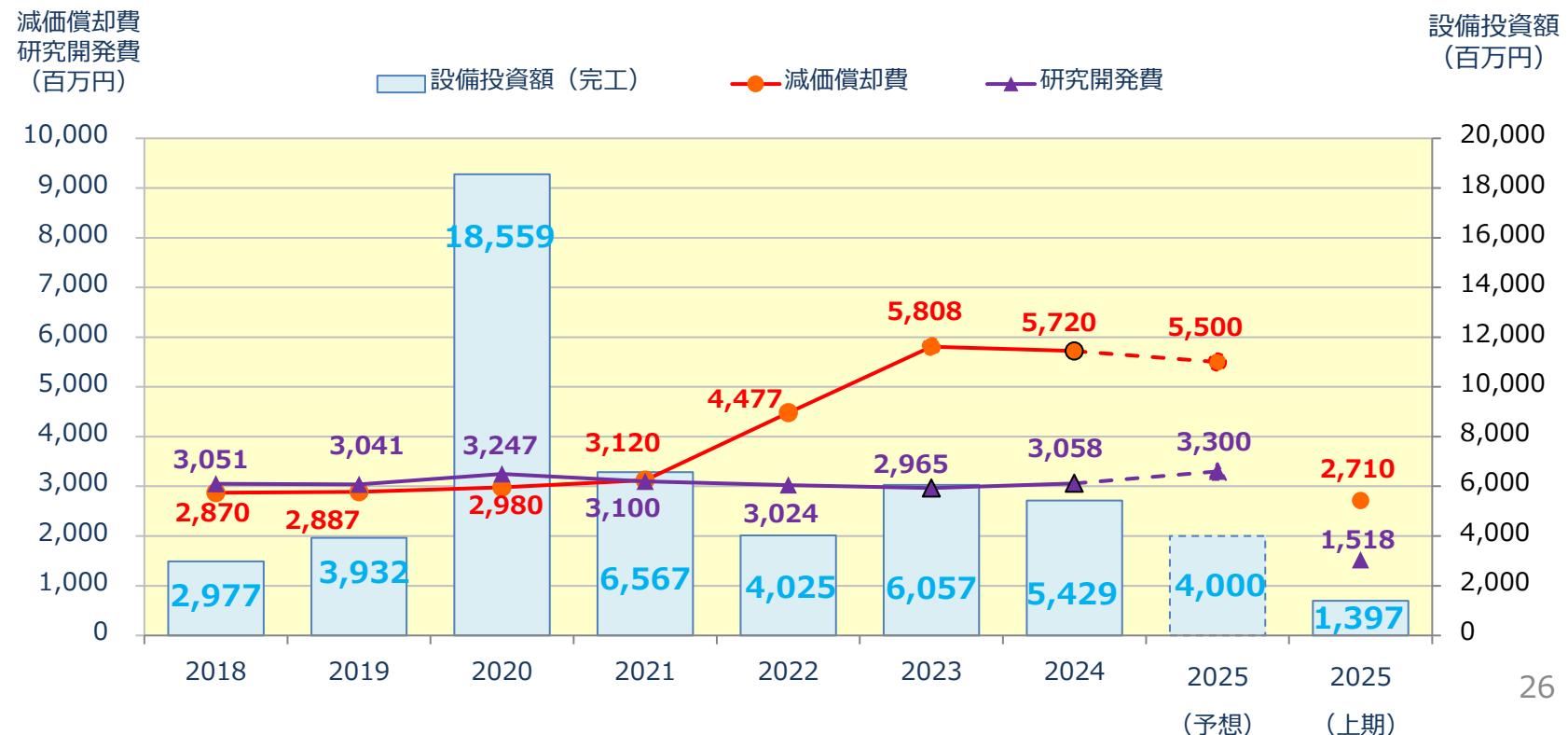
# セグメント別売上高四半期推移（中国）



# 設備投資および研究開発費

## 2025年度見通し

- ・設備投資：2024年度までで投資が一段落し、定常投資が中心となり、約40億円となる見込み  
新たな投資としては、大阪工場において、ライフサイエンス分野での微細藻類の培養検討を行うパイロットプラントが完工
- ・減価償却：千葉アルコン製造・富士工場の光硬化型樹脂プラント・水島工場のファインケミカルプラントの償却費計上そのため、55億円となる見込み

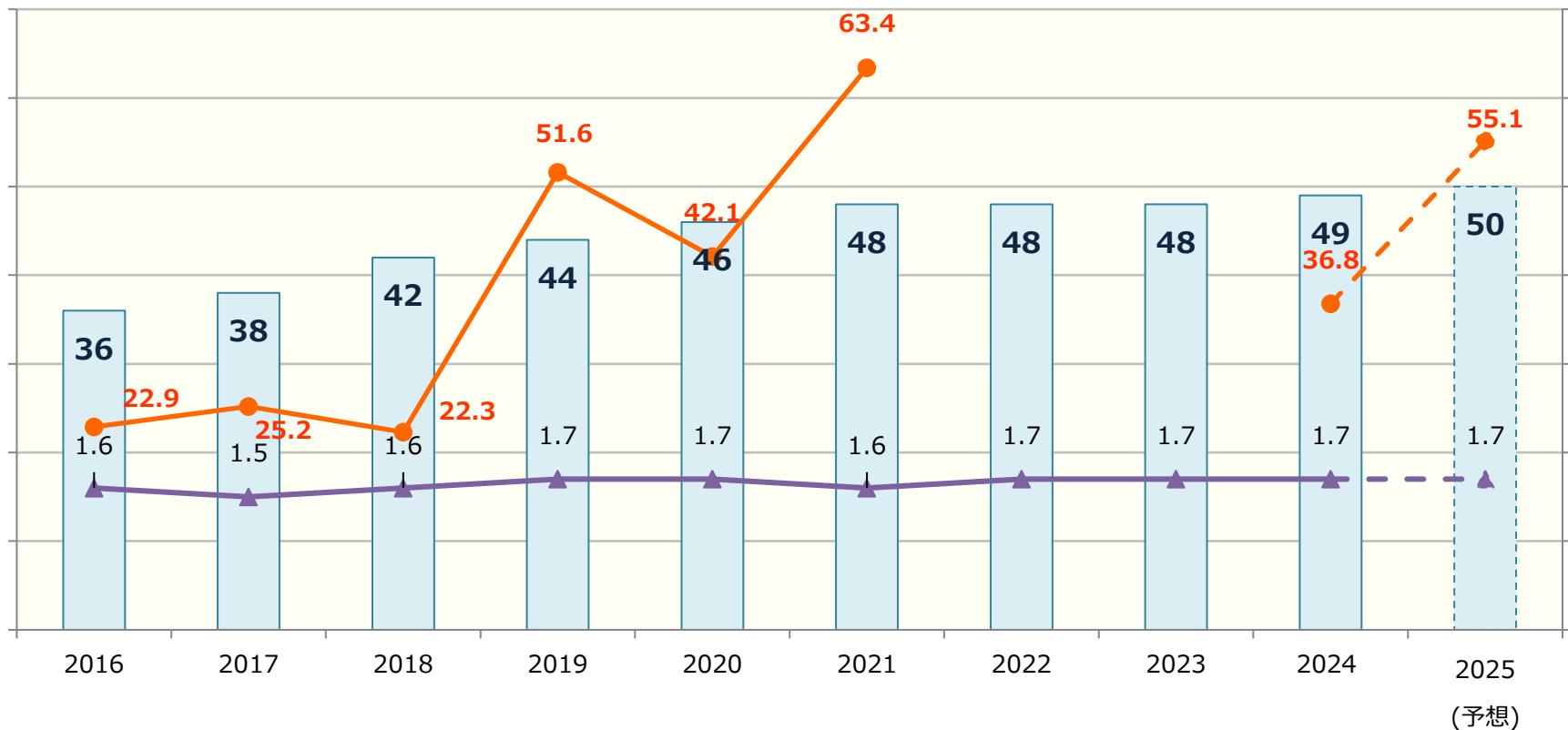


# 配当金の推移

基本方針

安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組む

■ 1株当たり配当金（円） ● 配当性向（%） ▲ DOE（%）



4次中計期間  
配当性向30%を目指す

5次中計期間  
配当性向40%を目指す

3

## サステイナビリティへの取り組み

# サステイナビリティへの取り組み

## KIZUNA指標

- 2050年CO<sub>2</sub>排出量実質ゼロに向けた取り組み
- 2025年CO<sub>2</sub>排出量：30%削減→50%削減（2015年比）
- 2030年CO<sub>2</sub>排出量：50%以上削減（2015年比）\*

\*現時点では日本国内グループ（千葉アルコン製造㈱を含まず）を対象。対象範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて検討予定

### 安全文化の醸成

- ✓コミュニケーション
- ✓人財育成
- ✓リスクアセスメント

荒川安全伝承館研修  
(富士工場)



保安道場  
(小名浜工場)

### 働きがいと生産性の向上

- ✓組織風土の醸成  
(価値観の共有)
- ✓人事制度の設計の見直し



KIZUNAワークショップの様子

### KIZUNA指標

個人と会社が  
共に成長できる環境づくり

- ✓中核人財の育成
- ✓多様な専門性の結集

### 経営指標を支える人的資本投資

# 人財育成・活躍への取り組み

当社の人財はサステイナビリティの取り組みを実施する全ての基盤  
多様な人財の尊重・能力を十分に發揮する企業として課題に取り組む

## 取り組み例

### ■ 人的資本の開示

人的資本における価値創出プロセス

人的資本経営で達成したいビジョン

当社グループは持続的・持続可能な「人材開発」を通じて、組織の成長と人材の成長を両輪として、持続的な社会貢献を目指します。

働きがいと生産性の向上

新規事業の創出

主なKPI (=KI2024指標・賞賛実績)

- 従業員満足度調査スコア (イキイキタイプ)
- 付加価値労働生産性
- 平均残業時間削減率
- 平均専門人財の育成 (受託研修者・データ解説専門家)
- 新規専門人財の育成 (受託研修者・データ解説専門家)
- 働きがい重視率

人的資本経営に対する投資テーマ

多様性の確保

働きがい改善

Well-being

キャリア形成支援

### ■ メンタルヘルス： ラインケア研修

\* メンタルヘルス 予防のレベルとケアの全体像

目的 対象	第1次予防 (未然防止)	第2次予防 (早期発見と対応)	第3次予防 (職場復帰支援)
セルフケア (労働者)	ストレスの風景と対処法を知る 心身の健康の把握 白井的な相談		出席・健常真常
ラインケア (督導監督者)	労働者に対する相談対応・関係各との連携 快適な職場環境づくり 早期発見・早期対応 職場復帰支援		
事業部門保健 スタッフ・事業場介護担当による 訪問	必要な情報・教員の把握、関係各との連携 相談への提言 相談窓口	メンタルヘルスの 対応実績 相談しやすい環境整備	職場復帰プログラム 管理監督者の助言

© MentalHealth Inc. 16

\*引用：ラインケア研修 宮本剛志氏

### ■ 育成面談勉強会

荒川化学工業株式会社  
ARAKAWA CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.  
つまぐさ化学する

育成面談勉強会  
~評価フィードバックにフォーカスして~

#### ■ 本日の目次

- ▶ 事前アンケート振り返り
- ▶ 育成面談 フィードバック方法変更
- ▶ 育成面談目的
- ▶ 育成面談 聴き方・話し方のポイント
- ▶ アサーティブな発信のコツ

評議が、真手や難解を決めるだけのものでなく  
前下がり会話からの操作に気付き、成長につながるものとするために、  
育成面談が重要な役割を果たします。

# 次代へつなぐ取り組み

## 開発目標

4 質の高い教育を  
みんなに



15 陸の豊かさも  
守ろう



## 荒川化学が提供する価値

- ・「楽しく化学する」を基本とした体験学習の実施
- ・2023年度よりYUNGA Forests Challenge Badges プログラムを実施（上段、下段右写真）  
詳細は当社HPの[新着情報](#)よりご確認いただけます
- ・若手、中堅社員の海外研修制度
- ・先進国およびその他の開発途上国における高等教育の奨学金制度
- ・地域社会と連携した石積み体験により、KIZUNAへの自己理解を深める研修を実施（下段左）

地域の松林復元に寄与する  
「マツタコロウの森」プロジェクト他の植林活動

## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

# 荒川化学工業株式会社



# 参考資料①

## 荒川化学の概要

- 会社概要 [\(詳細はこちら\)](#)
- 創業からの歩み [\(詳細はこちら\)](#)
- 所在地 [\(詳細はこちら\)](#)
- 経営方針 [\(詳細はこちら\)](#)
- 沿革 [\(詳細はこちら\)](#)

## 製品情報

- 熱硬化型樹脂 ■超淡色ロジン ■ロジン誘導体 ■精密部品洗浄システム
- 低誘電ポリイミド樹脂 ■電子材料用配合製品

## 取り組み事例

- 安全に対する取り組み ■ESGの取り組み ■新規事業への取り組み
- 健康経営の取り組み

# 参考資料②

## 第5次中期5カ年経営実行計画（補足）

- 第5次中期5カ年経営実行計画について ■ 財務目標（連結） ■ 財務目標（連結・セグメント別）
- 5つのKIZUNA/KIZUNA指標 ■ 経営理念とビジョン ■ 2030年のありたい姿 ■ 荒川化学の未来像
- 優先的な重要課題と5つのKIZUNA ■ 基本方針 ■ KIZUNA経営 ■ KIZUNA指標の進捗
- 事業ポートフォリオ改革①②③ ■ 重点課題の進捗 ■ セグメント組み換え
- SLBの発行・スキームイメージ・SPTs内容・進捗について ■ サステイナビリティ製品のSDGsへの貢献
- サステイナビリティ製品一覧と指標への影響度

## 財務情報・その他

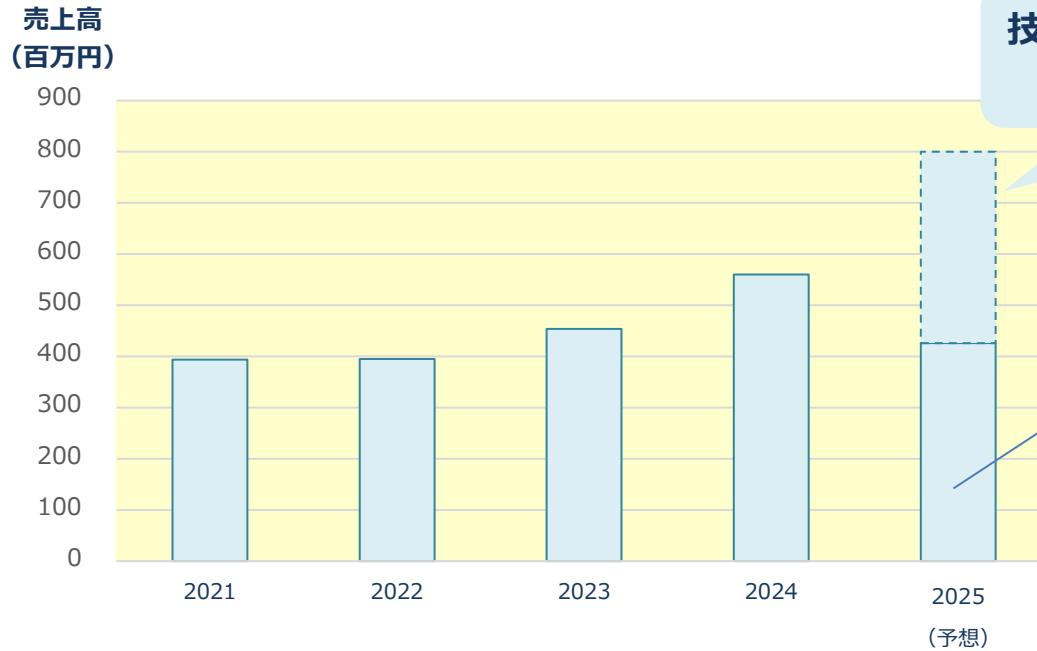
- 総資産・有利子負債推移 ■ キャッシュフロー推移 ■ 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション ■ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 ■ 地域別・セグメント別売上高比率
- 売上原価・販売管理費推移 ■ ロジン価格の推移 ■ 株価推移 ■ 株式情報

# 製品情報

# 熱硬化型樹脂（アラコート）

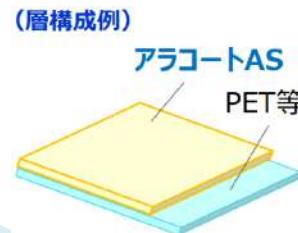
## 機能性コーティング

- 長年のインキ・塗料分野で培った高分子合成技術、二液硬化技術、配合技術を駆使して開発した熱硬化型機能性コーティング剤
- フィルムコーティングの**高機能化**に
- 「機能」を追求し、多様化するニーズに適した「解」を提案



技術力を背景としたカスタマイズ  
で採用数の増加

上期実績



- 帶電防止コーティング剤
- 離型コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤

# 超淡色ロジン (パインクリスタル)



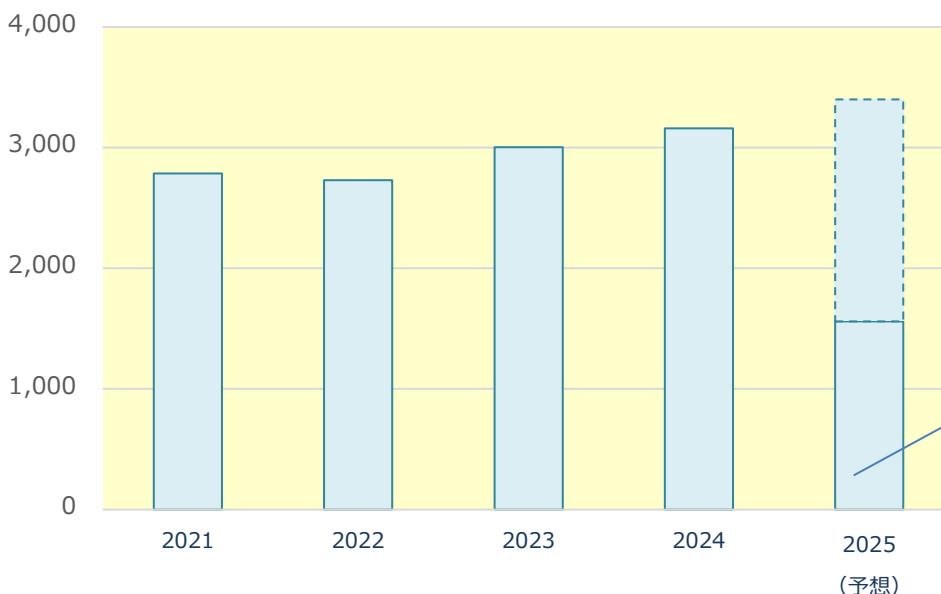
粘接着・バイオマス

 : サスティナビリティ製品

- オンリーワン製品（琥珀色のロジンを高圧水素化技術により無色化）
- 鉛フリーはんだ用フラックスの業界標準
- ライフサイエンス分野にも進出



売上高  
(百万円)



# ロジン誘導体（パインクリスタル・ロジンエステル等）



## 粘接着・バイオマス

### ■ロジンエステル：アジアで堅調

バイオマス素材として貢献、訴求していく

### ■パインクリスタル

琥珀色のロジンを高圧水素化技術によりほぼ無色、不純物が少ない熱安定性がよい製品

鉛フリーはんだ用フラックスの業界標準、ライフサイエンス分野にも展開

### ■樹脂エマルジョン

高い乳化技術による高品質な業界で高いシェアを誇る製品

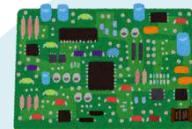
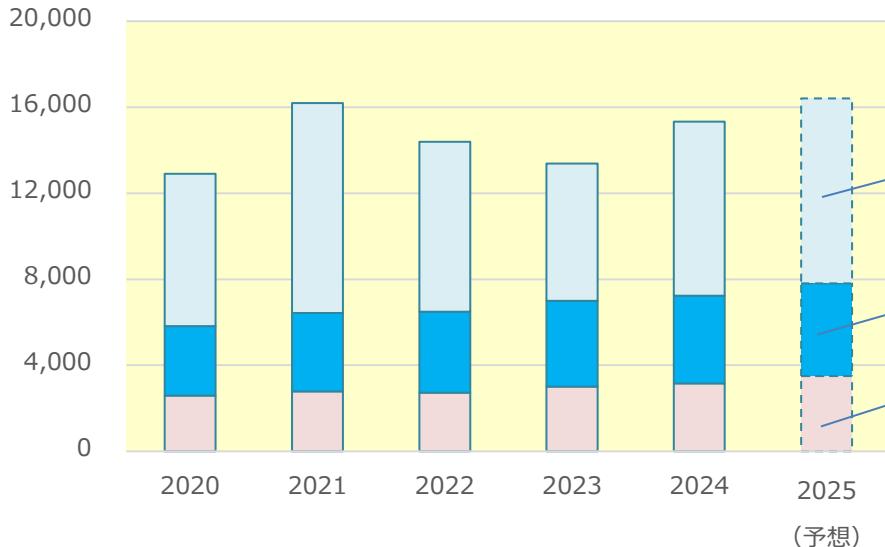
低VOC製品環境負荷低減や高軟化点、高耐水性製品などラインナップ



：サステイナビリティ製品



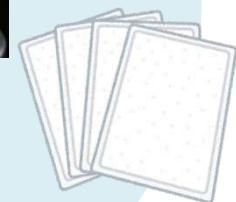
売上高  
(百万円)



■鉛フリーはんだ用  
フラックス



■3Dプリンター関連部材  
■光学フィルム関連部材



■食品ラベル、包装材料、  
建材・自動車向けテープ用粘着剤  
■医療用貼付剤



■食品ラベル、包装材料、  
建材・自動車向けテープ用粘着剤  
■医療用貼付剤

# 精密部品洗浄システム



ファイン・エレクトロニクス

## ■2019年6月

中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、

営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

## ■廃水ゼロを目指した技術開発



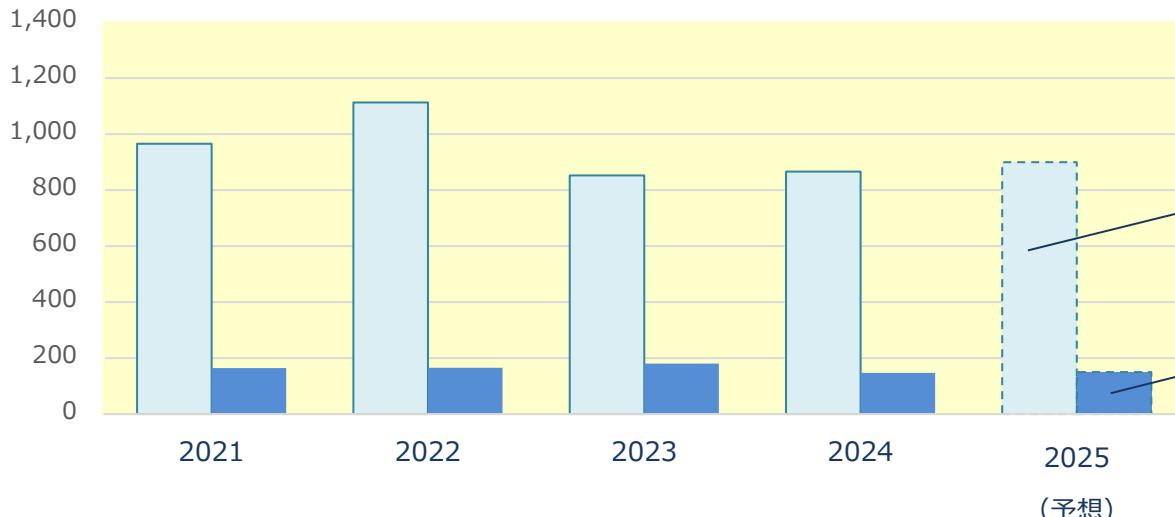
: サステイナビリティ製品

## 洗浄実験室



- 実装基板 , FC , HDDハブ, カメラモジュール ,  
LED, WL-CSP , パワーデバイスなど

売上高  
(百万円)



: サステイナビリティ製品

洗浄剤 パインアルファ

洗浄装置

# 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)



## 低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)

- 处理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える

⇒ 次世代通信技術「5G」で使用されるミリ波に対応可能なフレキシブル基板向け

低誘電接着剤として注目される

**感光性付与品を開発（2028年頃の採用を目指す）**

半導体の高性能化：複数の半導体を搭載する  
チップレットの再配線層（RDL）用絶縁材料

⇒ 新たな用途開拓に向けた研究開発も強化

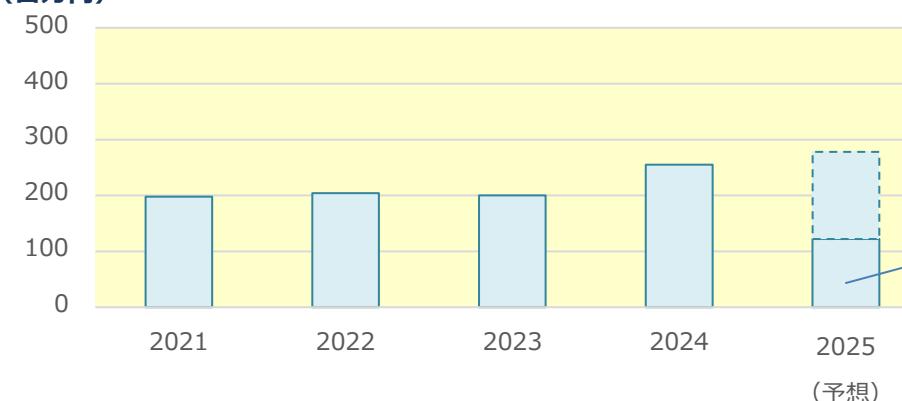
⇒ カーボンニュートラルトレンドを踏まえたバイオマス素材としてアピールしていく



売上高  
(百万円)

PIAD 液体外観

硬化後



- 一般社団法人日本有機資源協会の  
「バイオマスマーク認定」を取得  
(当社製品における取得は初めて)



バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230037

■ 製品名 : PIAD252



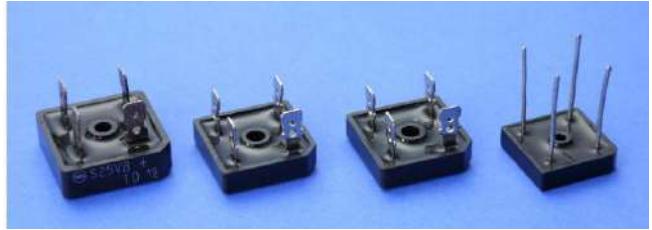
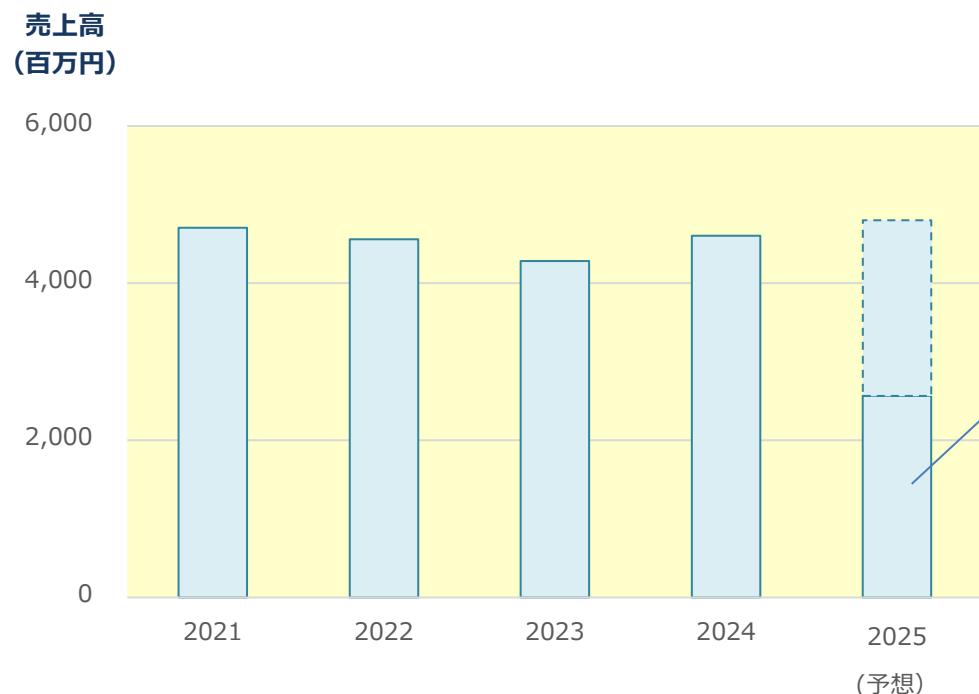
バイオマス  
使用部位: ポリイミド樹脂  
No.230036

■ 製品名 : PIAD152H 40

# 電子材料用配合製品

ペルノックス

- エポキシ樹脂、シリコーン樹脂などの樹脂配合技術とフィラーの配合・分散技術に強み



エポキシ樹脂用途

- 半導体モジュール
- センサー
- 車載電装品



# 取り組み事例

# 安全に対する取り組み

開発目標

荒川化学が提供する価値

8 働きがいも  
経済成長も



荒川安全伝承館の設置

小名浜工場による保安道場活動

- ・ 安全体感装置を使用した体験型研修・保全学習を実施

安全文化の醸成活動促進

- ・ 保安力向上センターによる保安力評価受審  
(水島工場、富士工場、大阪工場、小名浜工場)



左写真：研修の様子

# ESGの取り組み

ESG（環境・社会・企業統治）経営を通し、SDGsにも関連付けながら、さらに社会に貢献する

## 環境保全や技術開発による取り組み

開発目標	荒川化学が提供する価値	
	暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続けるための技術開発	
	具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動	
	具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動 ・「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」に参画 ・カーボンオフセット都市ガスバイヤーズアライアンスに加盟	 



サプライチェーン全体での炭素循環、持続可能な調達を目指す

# 新規事業への取り組み

## 開発目標

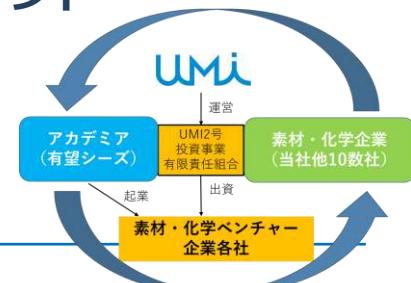


## 荒川化学の取り組み

新規事業・新規テーマに関する  
「社内テーマ提案・チャレンジャー育成」の運営チームを発足



ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター社（UMI）が運営する  
ベンチャーファンドであるUMI2号投資事業有限組合への投資  
⇒素材・化学産業に特化した日本唯一のファンド

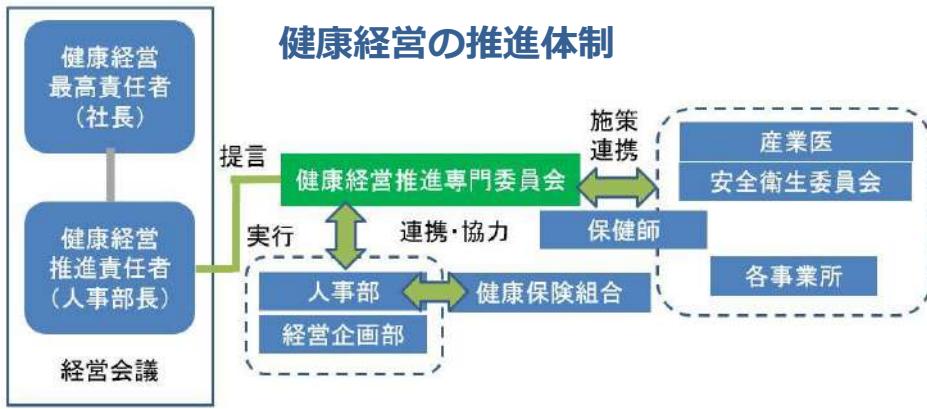


オープンイノベーションを活用した新規事業創出に取り組む

# 健康経営の取り組み

## 健康経営を通じて達成したいこと

- 従業員一人ひとりが元気に笑顔で出社できる会社づくりを行う。
- 従業員一人ひとりが仕事に集中し、能力を最大限に発揮する。
- 従業員だけでなく従業員の家族を含め、現役時はもとより退職後も健康で過ごしてもらう。



当社グループでも取得拡大中  
(高圧化学工業、山口精研工業)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
順位	1851～1900 位 /2869社	951～1000 位 /3169社	901～950 位 /3520社	551～600 位 /3869社

## TOPICs

- 戦略マップ/KPIの策定
- 定期健康診断オプション検査の費用補助
- GLTD（団体長期障害所得補償保険）を導入
- 乳がんセミナー開催
- 前立腺がんセミナー開催
- ラインケア研修・セルフケア研修の実施
- 社内報・社内イントラを使用した各事業所の取り組みの全社共有
- 各社員の趣味嗜好やライフプランに対する福利厚生代行サービスの導入



# 第5次中期5カ年経営実行計画について (補足)

# 第5次中期5カ年経営実行計画について

2021～2025年度

## **V-ACTION** for sustainability

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、  
持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、  
付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

# 財務目標（連結）

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	2025年度 中計目標
売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000	90,000
営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800	3,500
経常利益	3,566	△2,687	△2,412	854	2,400	3,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,502	△4,941	△1,042	2,644	1,800	2,100
営業利益率 (%)	4.1	△3.7	△3.6	1.3	3.3	3.9
EBITDA* (%)	6,500/8.1	1,569/2.0	3,190/4.4	6,778/8.4	8,300/9.8	8,700/9.7
ROE (%)	2.6	△8.7	△1.9	4.6	3.0	3.6
ROIC (%)	4.9	△3.1	△2.5	1.4	3.3	4.0
配当性向 (%)	63.4	-	-	36.8	40%を目標とする	
1株あたりの配当額 (円)	48	48	48	49	50	

\* EBITDA : 償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

(参考) 投資額	2021年度	2022年度	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
設備投資額*1	6,567	4,025	6,057	5,429	約4,000
減価償却費	3,120	4,477	5,808	5,720	約5,500
うち千葉アルコン製 造(株)	-	1,043	2,315	1,954	約1,600
新規事業投資額*2	100	150	306	797	約1,200

\*1中計目標(5年間累計) : 約260億円

\*22025年度までのライフサイエンス等の新規事業分野への設備投資・出資額 (コーポレート)

# 財務目標 (連結・セグメント別)

(百万円)

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	2025年度 中計目標
機能性	売上高	16,226	15,700	14,931	16,842	19,500	20,000
	セグメント利益	1,082	335	520	1,219	2,150	1,600
コーティング	売上高	18,652	20,991	21,120	22,041	21,000	23,500
	セグメント利益	969	310	1,339	1,849	1,150	1,600
製紙・環境	売上高	32,530	29,977	25,135	27,800	29,000	30,500
	セグメント利益	206	△3,871	△4,048	△2,241	△900	400
粘接着・	売上高	12,826	12,570	10,955	13,459	15,400	15,500
	セグメント利益	552	349	△393	847	900	700
バイオマス	売上高	279	191	80	93	100	500
	セグメント利益	45	42	38	56	40	80
ファイン・	売上高	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000	90,000
	セグメント利益	2,855	△2,832	△2,542	1,732	3,340	4,380
	コープレート 研究開発費	△437	△406	△408	△384	△490	△750
	全社費用 配賦差額等	886	331	333	△291	△50	△130
	営業利益	3,304	△2,907	△2,617	1,057	2,800	3,500

# 5つのKIZUNA/KIZUNA指標

- 5つのKIZUNAとリンクした優先的な重要課題に対する指標を設定
- 達成度に応じてポイント付与（目標ポイントを目指し「ありたい姿」へ）



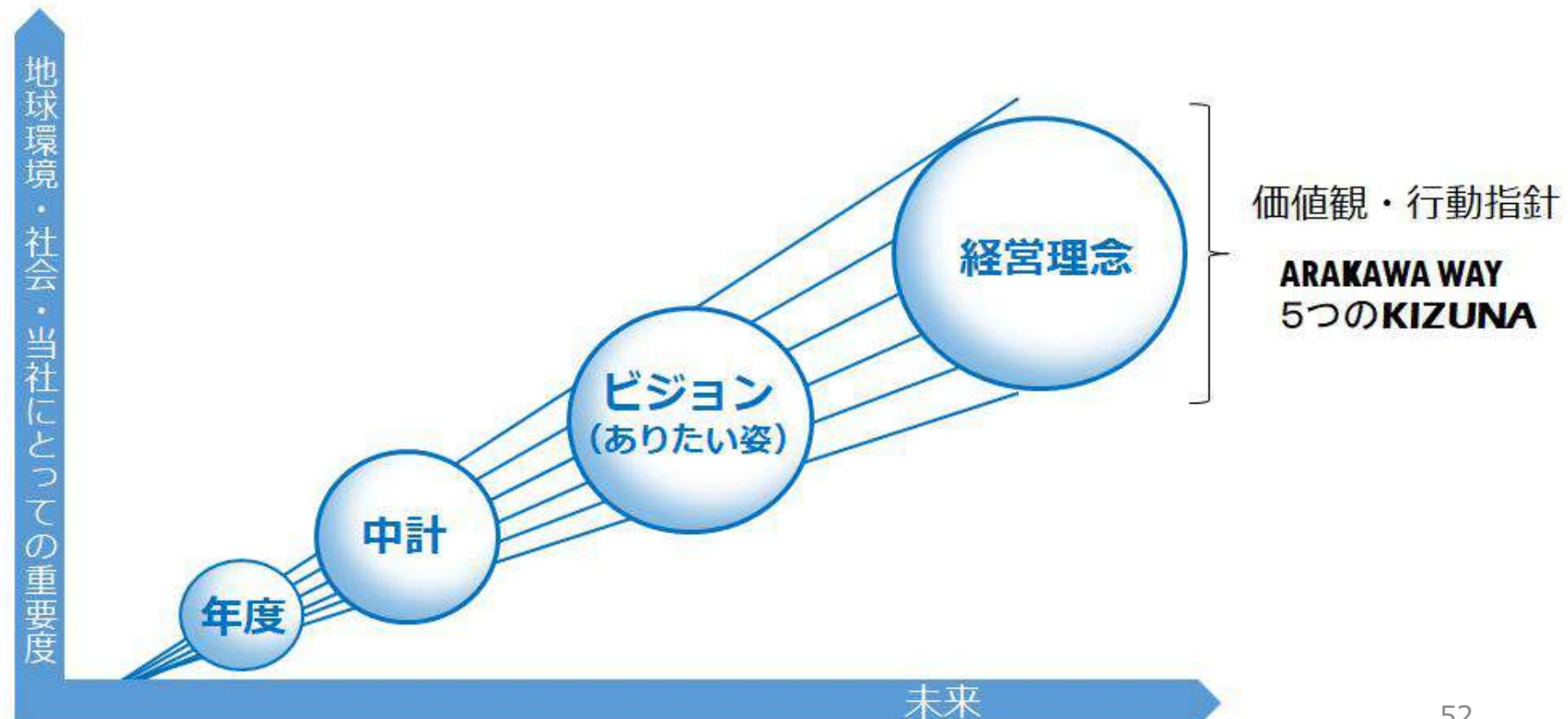
# 経営理念とビジョン

## 【経営理念】

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

## 【ビジョン】

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

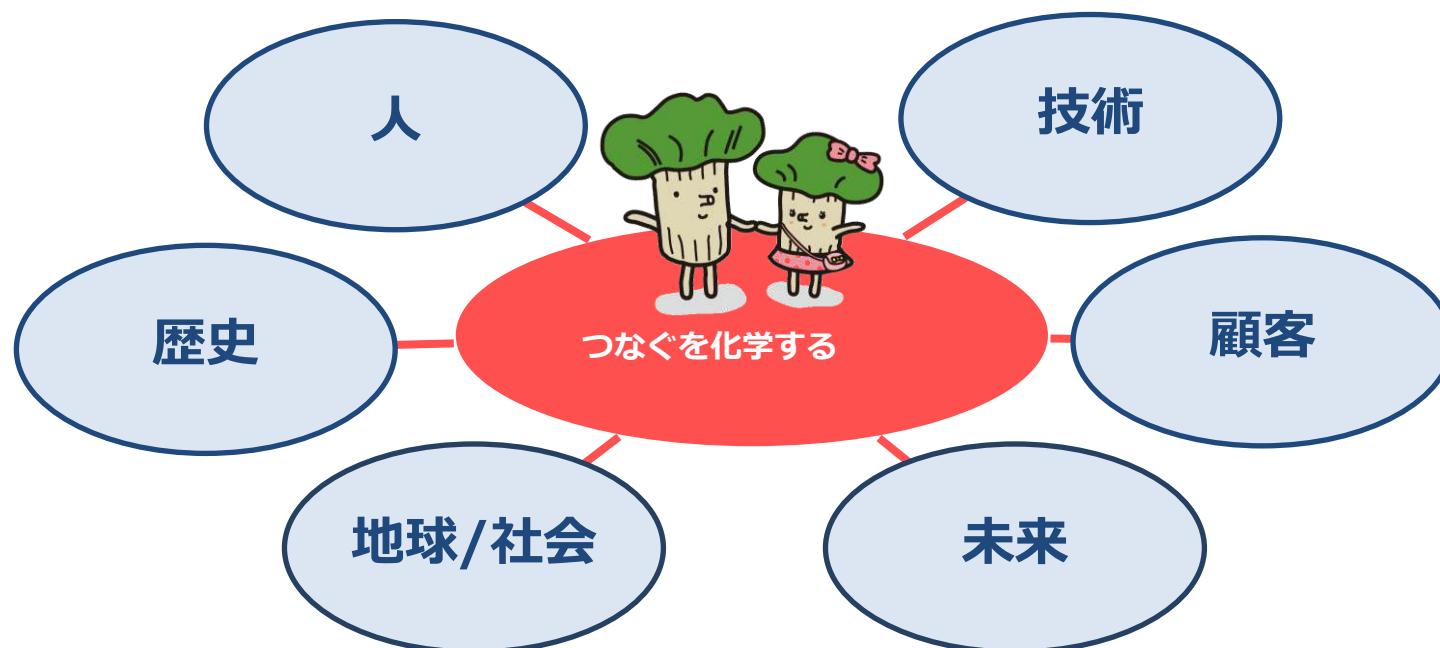


# 2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする環境に配慮した素材を活かし、  
「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、  
地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する

## つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER



# 荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）

- 地球環境と社会の持続的な未来に貢献するエコシステムにしつかり入り込む
- ライフサイエンス関連などの素材・REALとDIGITALを下支えするケミカルパートナーへ変革



# 優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA

## ■ 優先的な重要課題として12項目を選定し、5つのKIZUNA\*との紐付け

\*荒川化学グループの価値観・行動指針「ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA」

ESG	優先的な重要課題	5つのKIZUNA
E S	安全文化の醸成	
E	環境保全の強化	【社会の軸】まもる
G	ガバナンスの強化	
G	事業のグローバル化推進	
S	ダイバーシティ＆インクルージョン推進	【人の軸】関わりあう
S	働きがい改革	【自身の軸】主役になる
S	NEX T事業の創出	
E S	マーケティング力・研究開発力の強化	【技術の軸】技術の伝承と革新
G	生産体制再構築	
G	健全な財務基盤	
E S	持続可能な調達と供給	【顧客の軸】お客様と共に歩む
G	品質マネジメントの強化	

ステークホルダーにとっての関心・影響



\*策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照

# 基本方針

## KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成

KIZUNA指標：5つのKIZUNA とリンクした優先的な重要課題から設定した指標  
「ありたい姿」を実現するための指標

### KIZUNA経営



### 経営理念

個性を伸ばし  
技術とサービスで  
みんなの夢を実現する

ありたい姿

V-ACTION  
for sustainability

Dramatic  
SHIFT 1

地球環境・社会・当社にとっての重要度

未来



# KIZUNA経営

## ① KIZUNA経営

KIZUNA指標として目標設定  
事業ポートフォリオ改革の推進

②

働きがい  
と生産性  
の向上

安全操業  
環境保全

コミュニケーション  
グローバル化

③

財務目標  
の達成

コア技術  
の醸成  
新規事業  
の創出

### ① サステイナビリティ委員会 設置

- ・重要課題や関連目標の設定や見直し、進捗状況のモニタリング・評価
- ・事業ポートフォリオの見直しや中長期的な経営計画、方向性を決定

### ② KIZUNA推進室 設置

- ・個人と会社がともに成長できる体制や施策を立案
- ・5つのKIZUNA共有活動や働きがい改革などを通じて、企業風土の改革を目指す

### ③ 事業戦略部 設置

- ・グローバル事業戦略の提案・推進・評価・見直し
- ・事業の付加価値を高め、持続可能な成長の実現を目指す

# KIZUNA指標の進捗

KIZUNA指標

5つのKIZUNA	優先的な重要な課題	KIZUNA 指標	実績		目標 <sup>7)</sup>	ポイント合計
			2024年度	2025年度		
【社会の輪】まもる	安全文化の醸成	災害・事故ゼロ継続（死亡・休業災害等）および第三者機関による保険力評価、安全レベルの継続的向上	作業災害5件 保険力：評価実施なし	災害・事故ゼロ継続（死亡・休業災害等） 安全レベルの継続的向上（評価） <sup>12)</sup>	25	65
		C O <sub>2</sub> 排出量の削減	2015年度比55.2%削減	2015年度比50%削減 (2015年度比30%削減)*	2015年度比50%以上削減 <sup>10)</sup>	
		マツタロウの森の植林活動およびC O <sub>2</sub> 吸収量評価実施	植林実施 吸収量9トン/年以上	2026年度までに約1万本の植林を実施 C O <sub>2</sub> 吸収量10トン/年以上 <sup>11)</sup>	5	
	環境保全の強化	サスティナビリティ委員会の設置と運用	運用(中止見直し公表)	持続可能な経営および企業価値向上に向けた取り組み実施 (KIZUNA指標の達成)	10	
		重大な不正やコンプライアンス違反発生ゼロを維持	0件	0件継続	5	
		海外駐在員の邦人指数 <sup>14)</sup>	23%ダウン	2019年度比15%ダウン	2019年度比30%ダウン	
	【人の輪】開拓あらう	事業のグローバル化推進	28%アップ	2019年度比40%アップ	2025年度に再設定	40
		海外売上高比率	18%ダウン	2019年度比7%アップ	2019年度比15%アップ	
		バイオマス度換算充電指標 <sup>12)</sup>	12.3%アップ	2019年度比15%アップ	2025年度に再設定	
【自身の輪】主役になる	ダイバーシティ&インクルージョン推進	付加価値労働生産性 <sup>13)</sup>	イキイキタイプ56.0%	イキイキタイプ 50%以上	イキイキタイプ 60%以上	70
		従業員満足度調査（働きがいアンケート）	8.1% (55%)	調査票平均比 50%以下	調査票平均比 50%以下維持	
		高ストレス者比率 (製造業平均比) <sup>14)</sup>	実施／新規活動あり	地域清掃や献血などの継続と新たな貢献活動の実施	5	
		社会貢献活動の実施 <sup>15)</sup>	60.9%	男性育休取得率50%以上維持	2025年度に再設定	
		育児休暇取得率	6名増/4年	2021～2025年で7名増	2025年度に再設定	
		女性管理職人数	13名/4年	8件以上/5年	10件以上/5年	
		ミッションをS H I F Tした数	1件/4年	5件/5年	5件/5年、1事業化 <sup>8)</sup>	
		N E X T事業の創出	「そだてる」ミッションへの移行テーマ件数	23%アップ	2019年度比30%以上アップ (2019年度比25%以上アップ)*	20
		マーケティング力・研究開発力の強化	一部製品の標準拠点の 統廃合と増強	品種統合、O E M、I o Tの導入など各種施策の実施	15	
【顧客の輪】お客様と共に歩む	技術の伝承と革新	生産体制再構築	新規事業平均比	2019年度比30%以上アップ (2019年度比25%以上アップ)*	20	55
		健全な財務基盤	ROE	2019年度比25%以上アップ (2019年度比20%以上アップ)*	20	
		持続可能な調達と供給	品質マネジメントの強化	品質統合、O E M、I o Tの導入など各種施策の実施	15	
	持続可能な調達と供給	品質利益率	1.3%	3.9%以上	10%以上	50
		ROE	4.6%	3.6%以上	8%以上	
		持続可能な調達率（金額ベース） <sup>17)</sup>	65.9%	70%	70%以上維持	
		調達先監査件数	30件	50件	50件以上維持	
		品質マネジメントの強化	品質クレーム件数削減率	33%削減	2019年度比50%削減	
		品質マネジメントの強化			異常率最小化に向けた 強化施策の推進	

\*1 2019年度の海外関係会社あたりの平均邦人人員を100としたときの指標。<sup>2</sup> 精密機・バイオマス事業の主要製品のバイオマス度換算売上高を当社基準に基づき指標化。<sup>3</sup> 当社基準の付加価値額を設定して算出。目標値は策定時点での見なしの労働時間。従業員人件数を除して算出。<sup>4</sup> 新規事業平均比についてはストレスチェックの委託先における該当年度の製造業平均値を100として算出。ただし、2024年度の業界平均値は未公表のため、14%と見なして算出。<sup>5</sup> 新たな取り組みを実施した年は5ポイント加算する。<sup>6</sup> 従来の環境配慮型製品の売上高の対象範囲、基準を見直し、サステナビリティに貢献している製品として当社内で認定した製品の売上高を100として算出。2019年度を100として算出。<sup>7</sup> 非ヨロン系採用料（石油系原料料）を対象とした原料調整を請け負った当社基準で算出。<sup>8</sup> 第5次中計中では「そだてる」ミッションへ変更し、売上高10億円以上または事業利益1億円以上を達成した新規事業。<sup>9</sup> 日替換は見直す可能性がある。<sup>10</sup> ただし、2023年度の業界平均値は未公表のため、14%と見なして算出。<sup>11</sup> 現時点では日本国内グループ（千葉アルコン製造所を含まず）を対象にしているが、対象範囲の拡大や削減率については次期中計で改めて斟酌予定。<sup>12</sup> 2023年度分より既存の対象が前年度に施設した範囲に改訂されたため、過年度分は算定式に基づき推定吸収量を加算してカウント。<sup>13</sup> 評価4は一部の連続プラントの目標であり、大多数を占めるパッチプラントでは評価3.8を目標としている。

\*青枠は2021年12月23日（プライム市場を選択退所時）に追加した指標。赤枠の（ ）内の目標値はサステナビリティ・リンク・ボンドの取り組み目標（SPTs：サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）を示す（発行時点の目標）。

# 事業ポートフォリオ改革①

## ■コア技術・素材

荒川化学グループが提供できる価値に対して、**長期的に経営資源を投入し、**

**事業ポートフォリオの中核とする**

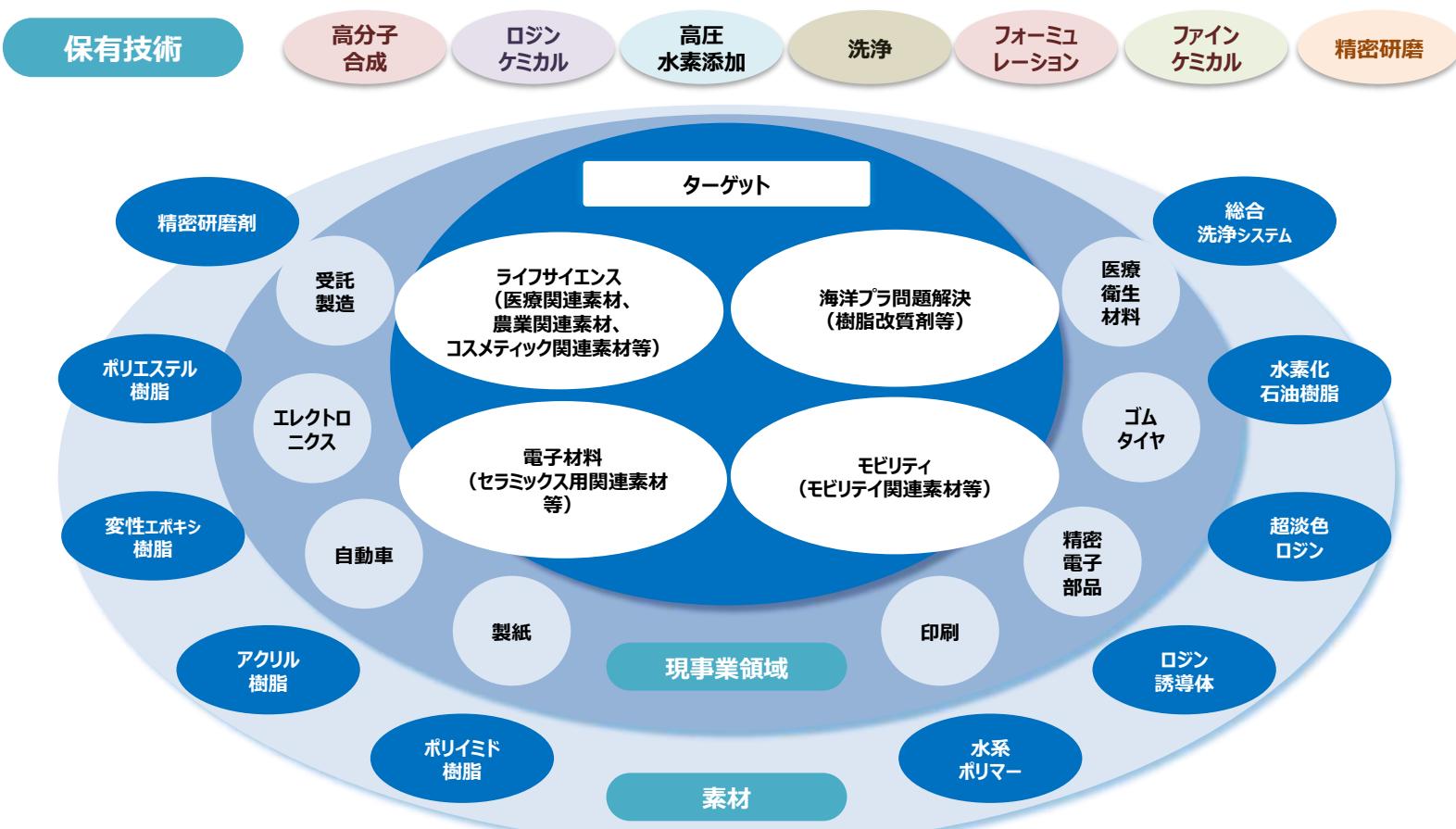
コア技術・素材	強み	方向性
水系ポリマー	重合技術	より一層環境に配慮した製品の開発 コア技術を活用した機能性材料としての新規用途展開
フォレスト ケミカル	原料調達 ロジン基礎技術 ロジン変性技術	持続可能な再生原料の有効活用 資源確保、高機能化 高付加価値用途への展開
水素添加	高圧水添技術・ 設備	グローバルでのブランド力の維持・強化 高圧水添技術の伝承と活用・展開 ブラッシュアップ
機能性材料*	スペシャリティ カスタマイズ	業界情報の集約 市場変化スピードへの対応、新規テーマ獲得 品質、生産設備の強化

\* 機能性コーティング剤（光硬化型/熱硬化型樹脂）、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル、電子材料配合製品、精密研磨剤など

# 事業ポートフォリオ改革②

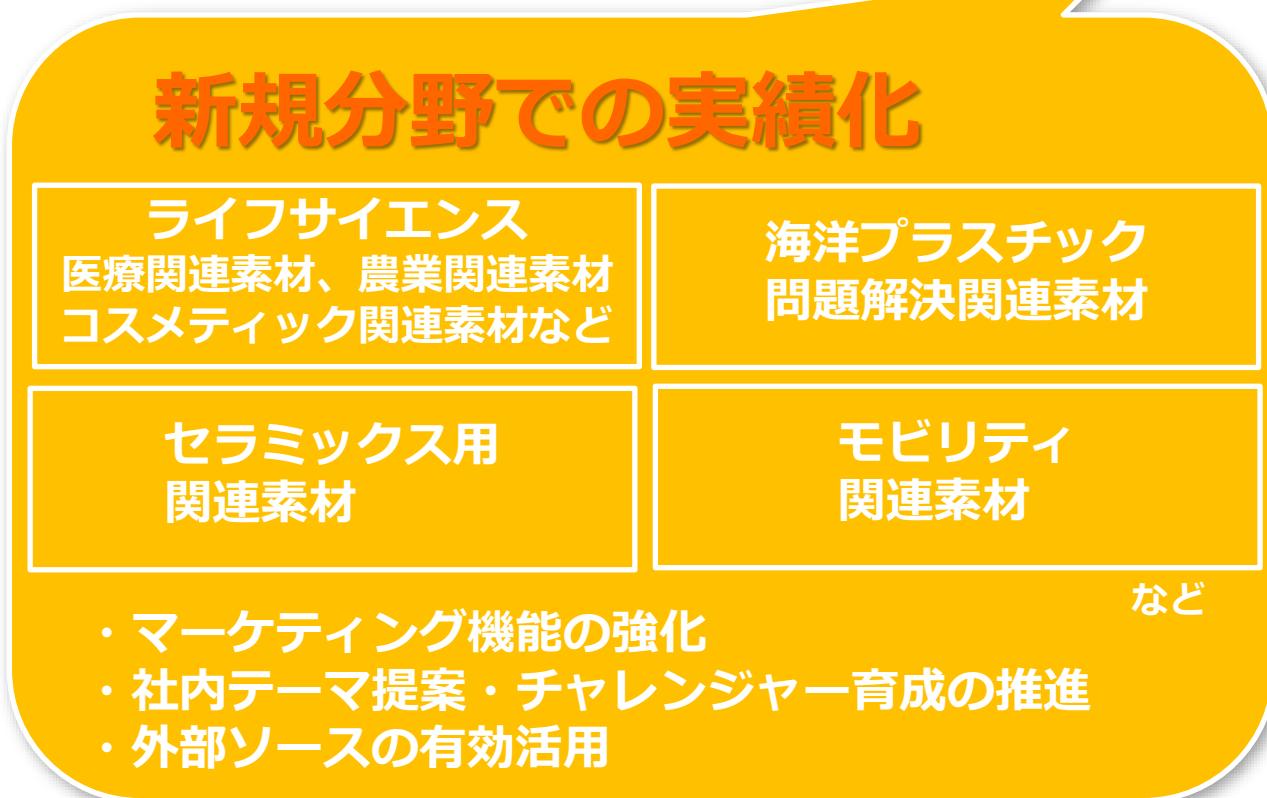
## ■現事業領域・素材と今後のターゲット分野

現事業領域に加え、新たな事業領域での事業創出に挑戦



# 事業ポートフォリオ改革③

- 新規事業創出の仕組みを確立し、ターゲット分野への参入に挑戦
- A I・M I活用による研究開発活動の効率化を推進



# 重点課題の進捗 事業のSHIFT推進

## ■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「やめる/わたす/する」へのSHIFTもおこない、事業の新陳代謝を推進

2025年度

みつける



### そだてる

売上高10億円  
または事業利益1億円  
を見込める事業

- ・熱硬化型樹脂
- ・低誘電ポリイミド樹脂
- ・電池用材料
- ・微細藻類 (+ガルデリア社)

### のばす

経営資源の集中投入により成長が  
期待できる事業（事業利益率7%以上）

- ・光硬化型樹脂
- ・製紙薬品（海外）
- ・ファインケミカル製品（半導体材料）  
(かせぐ→のばす)
- ・精密研磨剤（HDD）  
(かせぐ→のばす)

### やめる/わたす/ する

採算性が見込めない事業

- ・欧州での水素化石油樹脂製造終了
- ・ロジン誘導体等およびサイズ剤事業  
の生産拠点統廃合完了

### かせぐ

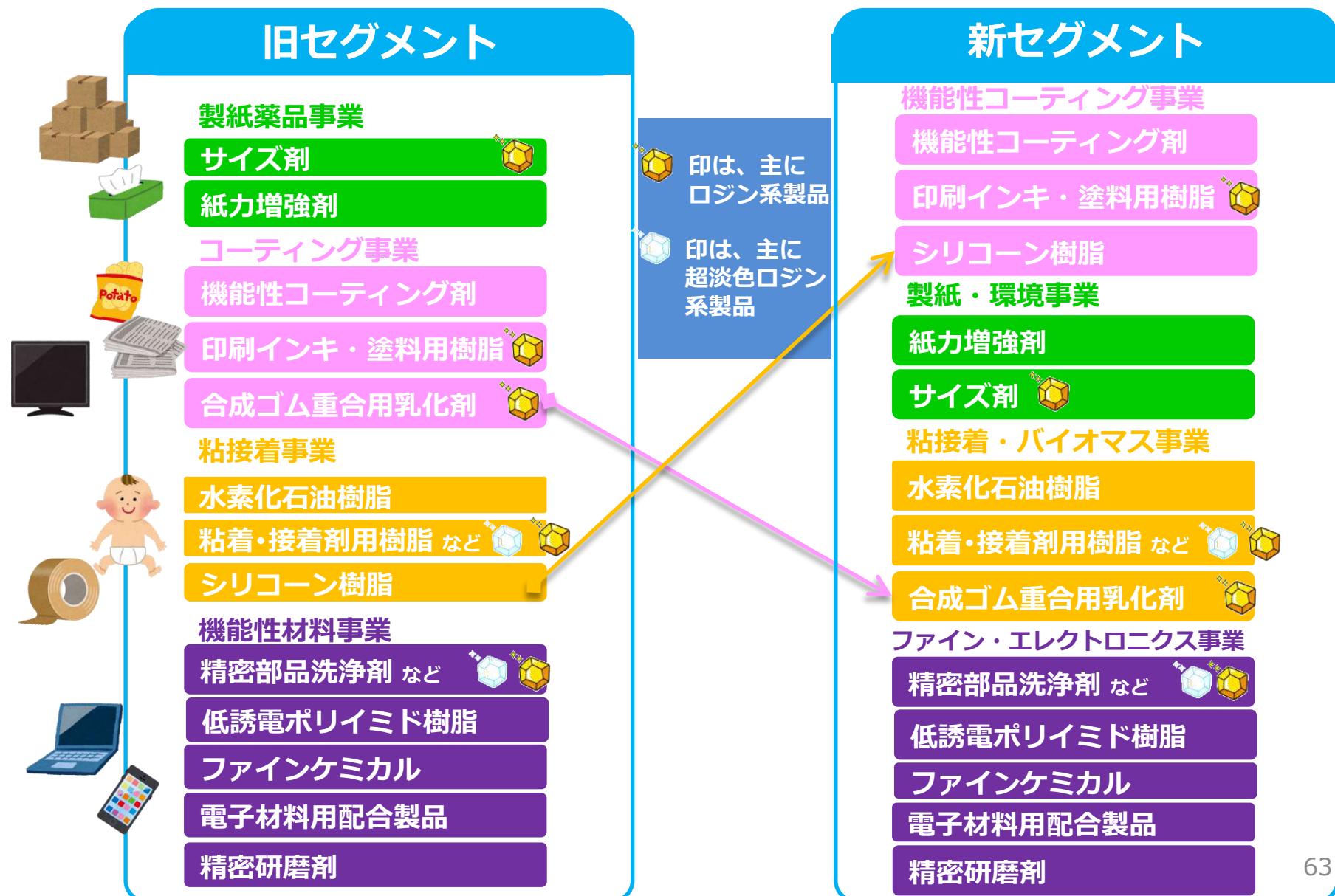
長期的に利益を生み出す事業  
(事業利益黒字。利益率5%目処)

- ・印刷インキ用・塗料用樹脂
- ・製紙薬品（国内）
- ・ロジン系粘着接着剤用樹脂
- ・水素化石油樹脂（のばす→かせぐ）
- ・精密部品洗浄剤（のばす→かせぐ）
- ・電子材料用配合製品 等

成長性

収益性

# セグメント組み換え (2021年度より)



# サステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）の発行

日本の化学業界では**初**(世界の化学業界7例目、国内10例目)となるSLB発行



社債の名称	荒川化学工業株式会社第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付） (サステナビリティ・リンク・ボンド) (別称：荒川化学 マツタロウ サステナビリティ・リンク・ボンド)
年限・発行額 (各社債の金額)	5年・50億円 (1億円)
利率 (条件決定日)	年0.180% (2021年11月19日)
取得格付	A – (株式会社日本格付研究所)
引受会社	みずほ証券株式会社（事務主幹事、Structuring Agent）、野村證券株式会社、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
SPTs	<b>SPT1：2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減(Scope1+2)</b> <b>SPT2：2025年度のサステナビリティ製品*の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ</b>
未達成の場合 (2025年度末時点)	<ul style="list-style-type: none"><li>片方未達の場合、下記の寄付先へ、2026～2030年度の各年度で寄付を実施（社債発行額の0.30%）<ul style="list-style-type: none"><li>①CO<sub>2</sub>吸収に効果のある松の植林や苗などを植える法人・団体等（SPT1のみ未達の場合）</li><li>②将来を担う学生や子どもたちへの教育の提供や関連する法人・団体等（SPT2のみ未達の場合）</li></ul></li><li>いずれも未達の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①および②にそれぞれ社債発行額の0.15%相当額（合計で社債発行額の0.30%相当額）の寄付を実施</li><li>SPTs未達の場合の寄付の実施状況ならびにSPTsの進捗状況については、ウェブサイト上に公表</li></ul></li></ul>
SLBの 適合性について	株式会社日本格付研究所（JCR）より、ICMAが策定したサステナビリティ・リンク・ボンド原則 (SLBP) および環境省が策定したグリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインに適合している旨の第三者意見書を取得

\*社会インフラ課題貢献、環境負荷低減、天然資源活用といったサステナビリティに貢献している製品として当社内で認定した製品

# SLBスキームイメージ

当社のマテリアリティに対応する取り組みとKIZUNA指標(KPI)からリスクと機会に対して重要な以下の2つを選定

KPI 1 CO<sub>2</sub>排出量の削減(Scope 1、2)

KPI 2 サステナビリティ製品の連結売上高指数

## サステナビリティ・リンク・ボンドにおける発行条件と連動するSPTs

SPT 1

2025年度のCO<sub>2</sub>排出量を2015年度比30%削減

SPT 2

2025年度のサステナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ

※KPI(キー・パフォーマンス・インディケーター)：非財務情報に関する重要情報評価指標

※SPTs(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット)：サステナビリティ・リンク・ボンドの発行条件を決定する発行体の経営戦略に基づく目標

SPTs未達時

判定日において、SPTsの目標が達成できない場合、2026~2030年度の各年度寄付を実施。  
合計で社債発行額の0.30%相当額の寄付をする。

### 【イメージ】

SPTs達成期限

SPTs未達時、合計で発行額の「0.30%」分を  
2026~2030年度の各年度寄付

SPTsの進捗状況については、発行の翌年度を初回とし、  
判定日まで年次で当社ウェブサイト上に公表

SPT 1:CO<sub>2</sub>排出量の削減への取り組み

SPT 2:サステナビリティ製品売上高アップへの取り組み

償還日までに判定  
(JCIによる検証)

寄付額  
300万円

2026年度  
累計  
600万円

2027年度  
累計  
900万円

2028年度  
累計  
1,200万円

累計  
1,500万円

2021年11月  
(5年SLB発行)

2026年3月

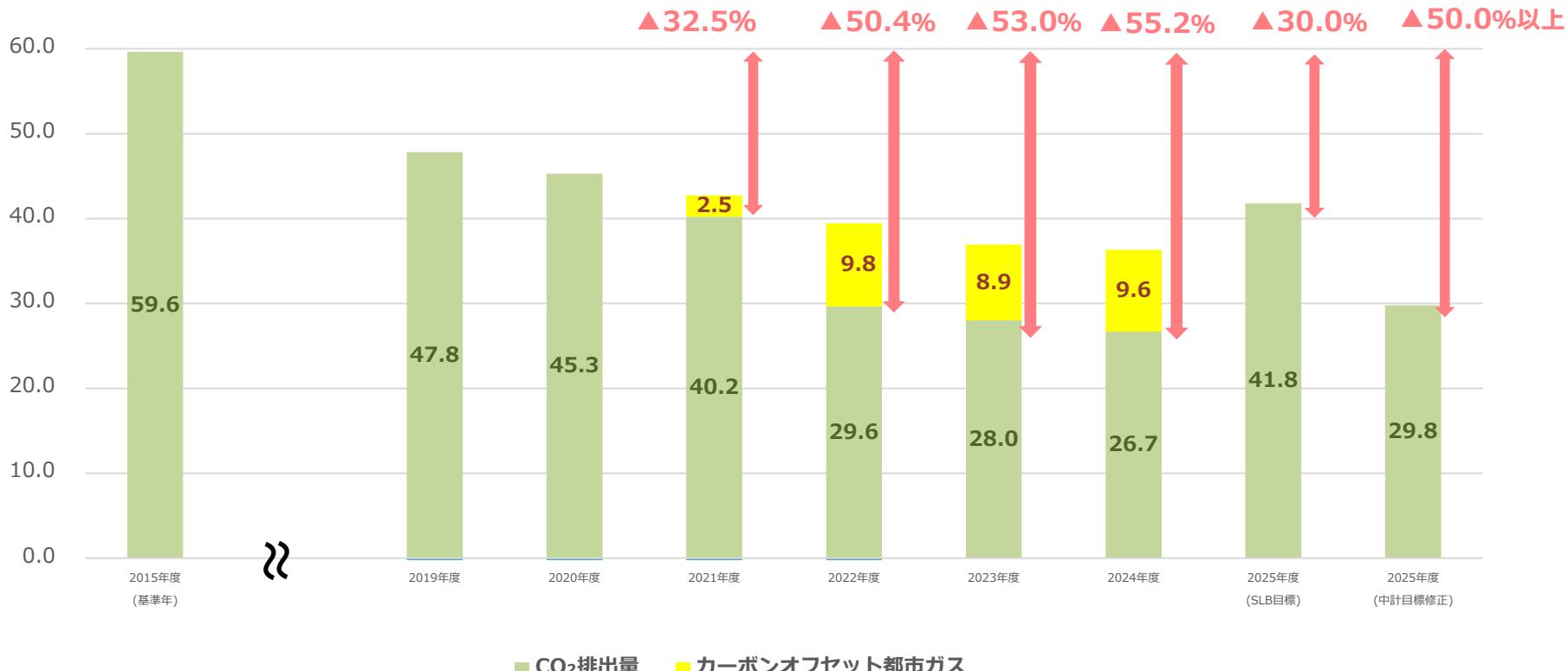
2026年11月  
(SLB償還)

# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT1の進捗について

2025年度のCO2排出量を2015年度比30%削減

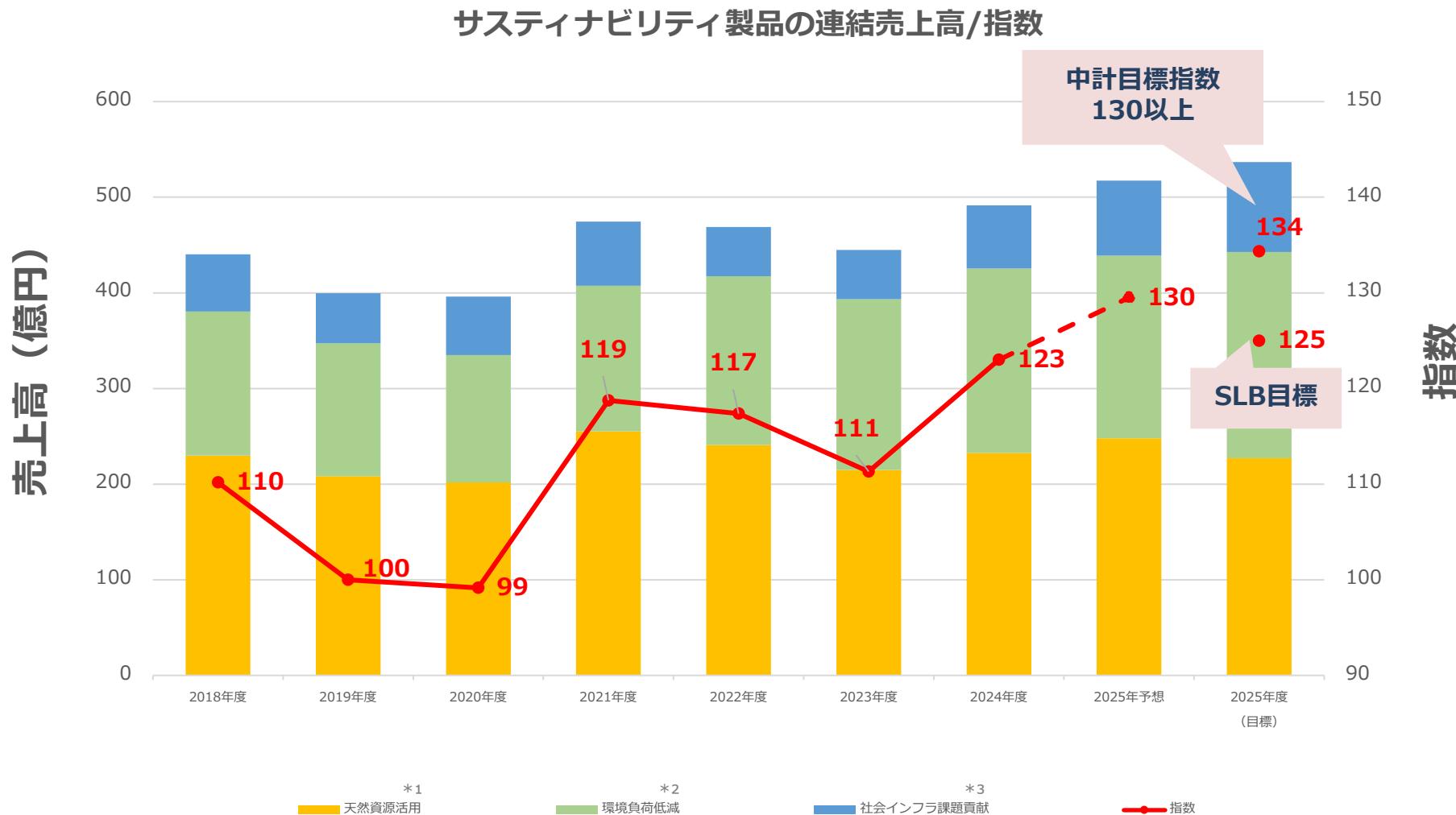
## CO2排出量の推移

- SPT1の算定範囲として定めた単体および国内の主要なグループ会社(ペルノックス、高圧化学工業、山口精研工業)におけるCO<sub>2</sub>排出量の合計推移
- 2021年から2025年の5年間で継続的な投資を予定
  - EMS(環境マネジメントシステム)、省エネ活動(LED照明や効率化など)
  - 大規模投資省エネ(太陽光発電設置など)
  - 再エネ電気やカーボンオフセット都市ガスの購入など



# サステナビリティ・リンク・ボンド SPT2の進捗について

2025年度のサスティナビリティ製品の連結売上高指数を2019年度比25%以上アップ



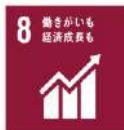
\*1 循環型素材であるロジン系樹脂の新たな用途開発により維持・拡大に努める

\*2 カーボニュートラルな社会の構築に資する製品への需要拡大を捕捉

\*3 社会的課題解決(EV車、Society 5.0を見据えた通信インフラの拡大)に資する製品の需要拡大への対応

# サステイナビリティ製品のSDGsへの貢献

## サステイナビリティ製品と関連する主なSDGsおよび169のターゲット

SDGs目標	169のターゲットの主な項目
8 働きがいも 経済成長も 	8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、 <b>安全・安心な労働環境を促進する。</b>
9 経済と技術革新の基盤をつくろう 	9.4 2030年までに、 <b>資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。</b> 全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
12 つくる責任 つかう責任 	12.2 2030年までに <b>天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用</b> を達成する。 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、 <b>製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壤への放出を大幅に削減する。</b> 12.5 2030年までに、 <b>廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</b>
13 気候変動に 具体的な対策を 	13.3 <b>気候変動の緩和、適応、影響軽減</b> 及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

メイン  
の観点

# サステイナビリティ製品一覧と指標への影響度

カテゴリー	製品	影響度*4	野心度*5
社会インフラ課題貢献*1 	光硬化型樹脂	中	↗
	低誘電ポリイミド樹脂	小	↗
	電池用材料	小	↗
環境負荷低減*2 	紙力増強剤	大	↗
	湿潤紙力増強剤	小	↗
	水系インキ・塗料用樹脂	小	↗
	剥離紙用コーティング剤	小	↗
	精密部品洗浄剤	小	↗
天然資源活用*3 	ロジン誘導体	中	↗
	超淡色ロジン	中	↗
	水系粘着・接着剤用樹脂	中	↗
	サイズ剤	中	↘
	ロジン系印刷インキ用樹脂	中	↘
	合成ゴム重合用乳化剤	中	→

\*1 5Gなど情報通信速度・量の質的改善、EV普及への貢献 \*2 古紙リサイクルの普及促進などバリューチェーンを通じた環境配慮（労働環境改善・大気汚染の防止を含む）への貢献

\*3天然資源活用による炭素循環社会への貢献 \*4 サステイナビリティ製品の売上高に占める割合、\*5 2019年度比2025年度売上高増への貢献度

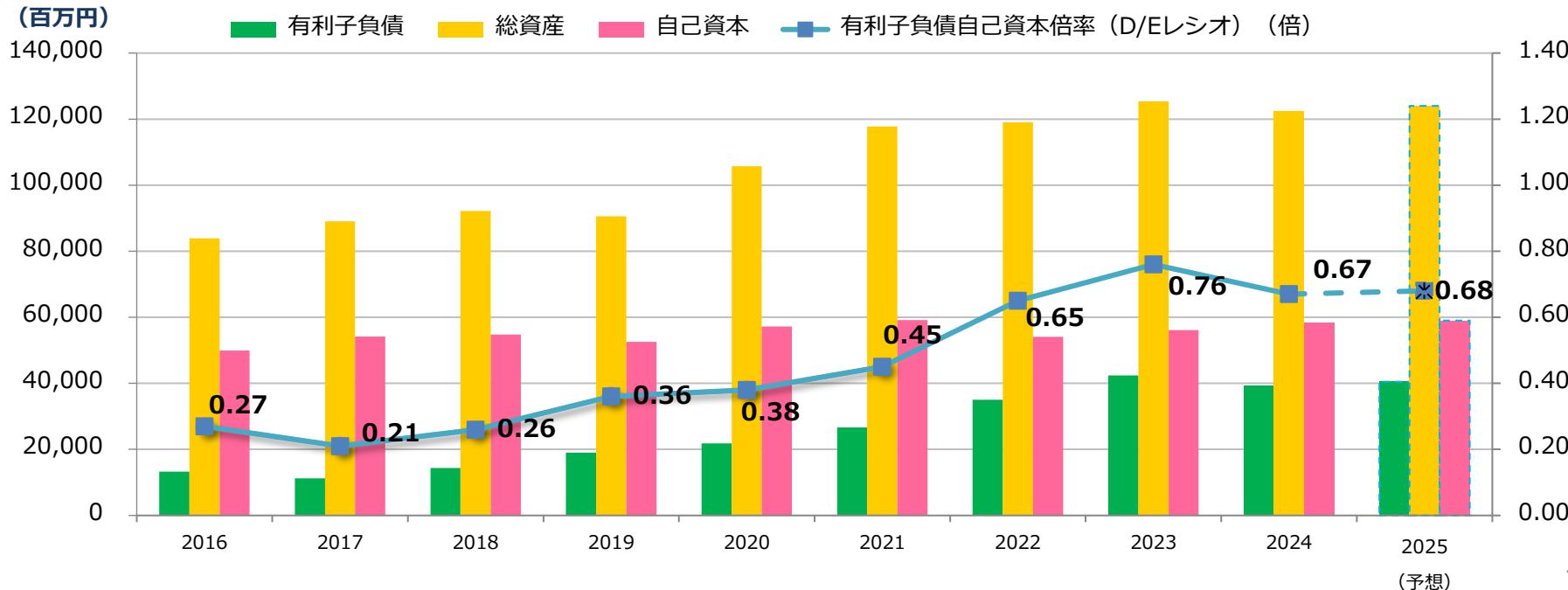
# 財務情報・その他

# 総資産・有利子負債推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
有利子負債	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	26,680	35,052	42,388	39,381	40,500
総資産	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	117,739	119,035	125,418	122,297	124,000
自己資本	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	59,184	54,082	56,134	58,475	59,000
自己資本比率 (%)	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	50.3	45.4	44.8	47.8	47.6
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.45	0.65	0.76	0.67	0.68

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

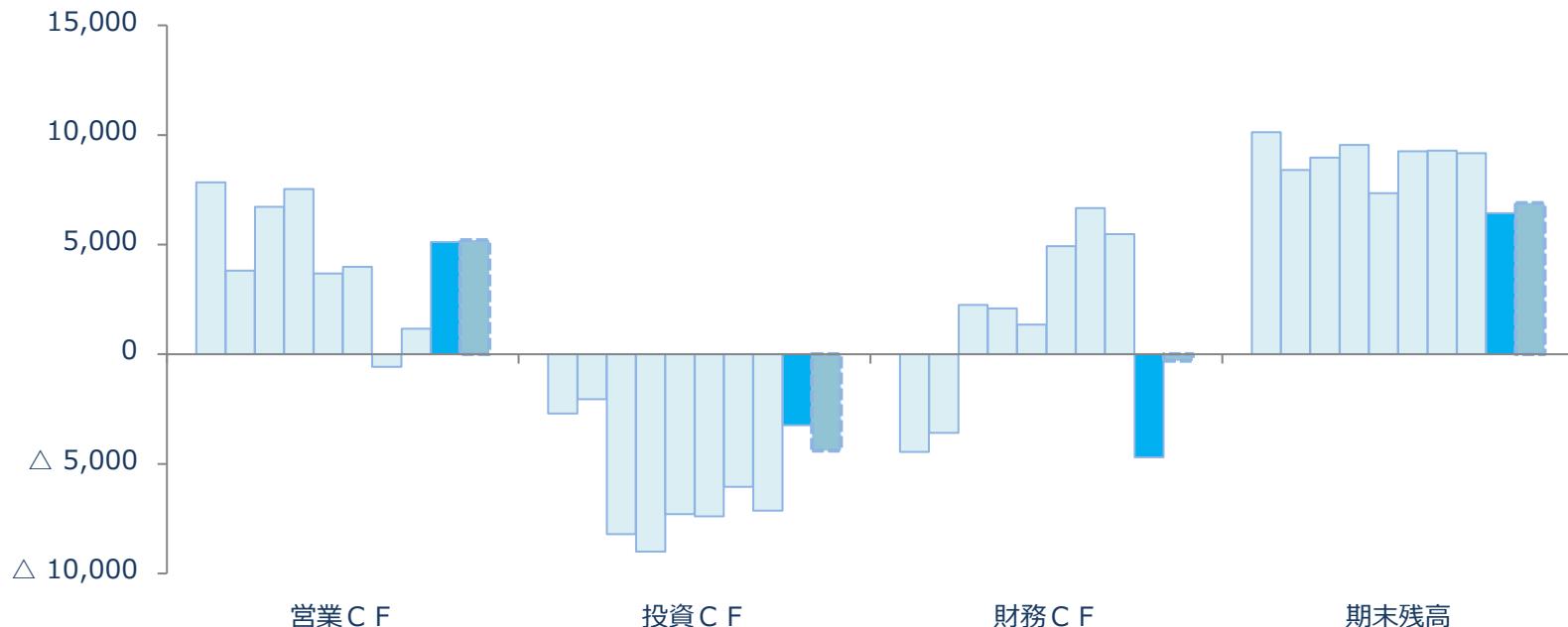


# キャッシュフロー推移

(百万円)

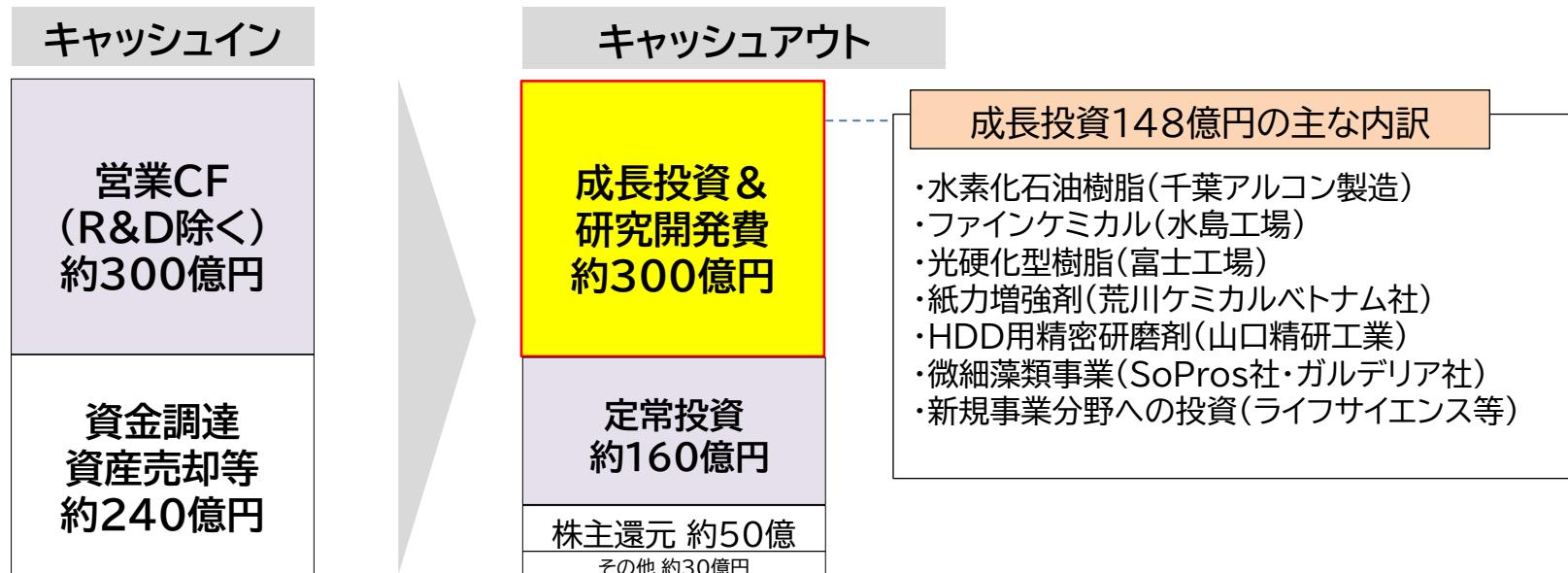
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
営業C F	7,843	3,808	6,728	7,534	3,685	3,989	△ 575	1,157	5,119	5,200
投資C F	△ 2,698	△ 2,048	△ 8,208	△ 9,001	△ 7,298	△ 7,401	△ 6,046	△ 7,140	△ 3,243	△ 4,400
財務C F	△ 4,452	△ 3,586	2,243	2,084	1,354	4,927	6,666	5,484	△ 4,704	△ 300
期末残高	10,118	8,404	8,970	9,545	7,342	9,250	9,286	9,164	6,434	6,900

(百万円)

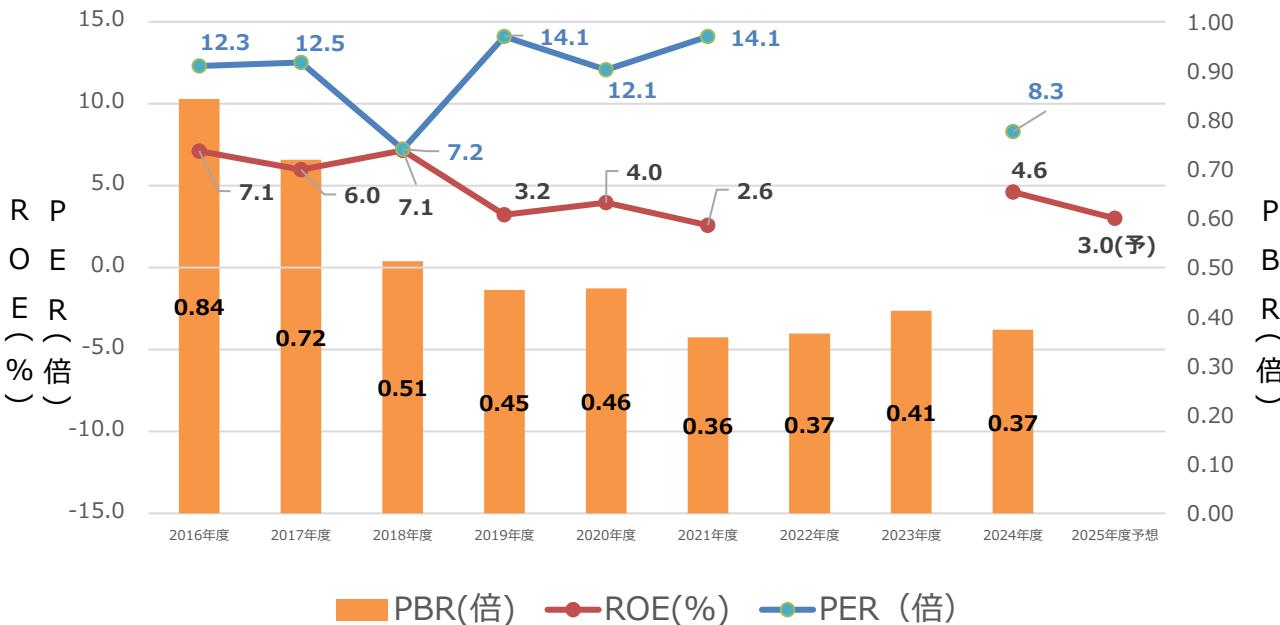


# 第5次中計期間における当社のキャッシュ・アロケーション

## 第5次中計での投資総額見込み（5年累計）



# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



■ 資本コスト (WACC) は4-5%程度  
■ 2016年0.8倍を上回る水準まで改善  
(2017年一時的に1倍超)  
↓ 2022年度および2023年度は純損失  
現在はPBR0.5倍を下回る状態継続

資本効率の重要なKPIとして、  
ROICも次期中計に取り込む予定

## ☑PBR改善に向けた取り組み

### ROE

ROE > 株主資本コスト & ROIC > WACC

(事業の収益性の回復と安定性)

- 中期経営実行計画の各施策を推進・実現
- 事業ポートフォリオ改革の見直しを継続
- マイルストーン

ROE7%・ROIC5%達成 ⇒さらなる向上

PBR =

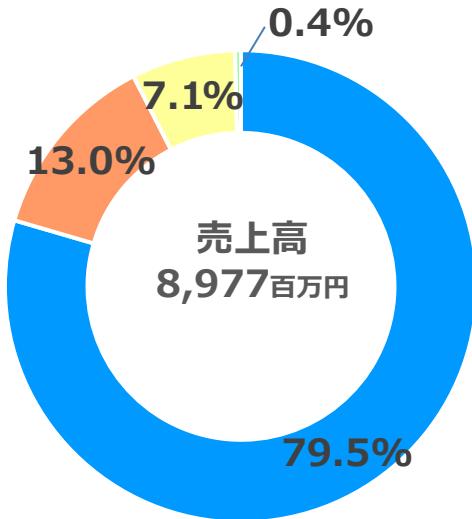
### PER

(企業価値の向上)

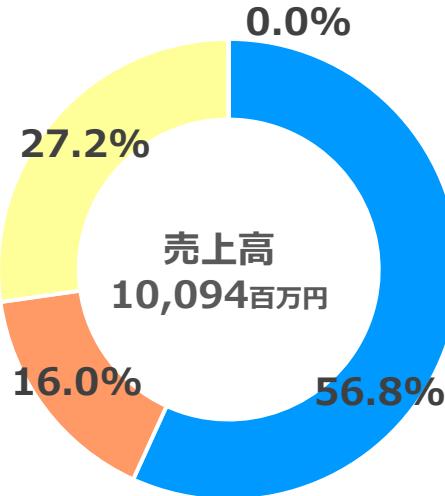
- 新規事業の創出による期待度アップ
- 中長期的な収益の成長性
- 積極的な情報開示

# 地域別・セグメント別売上高比率

機能性コーティング



製紙・環境



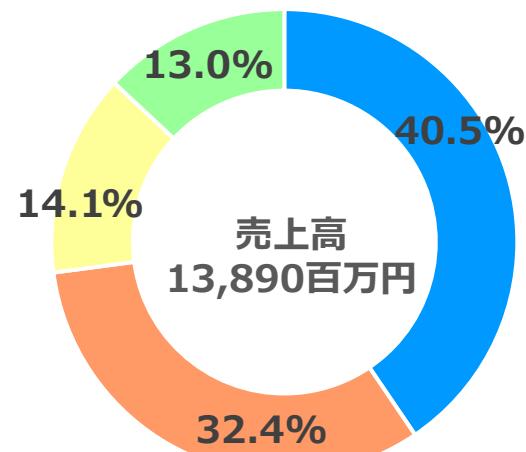
日本

中国

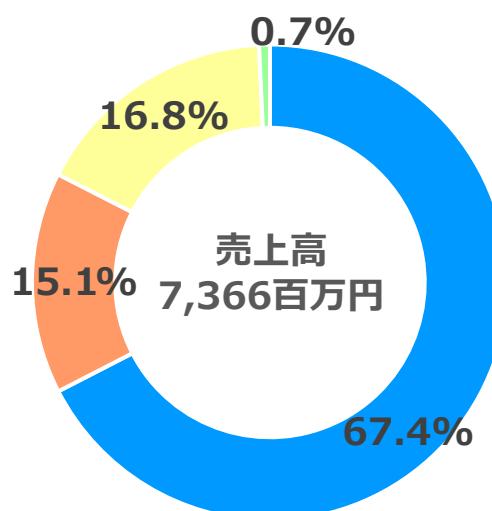
アジア（中国除く）

南北アメリカ・ヨーロッパ

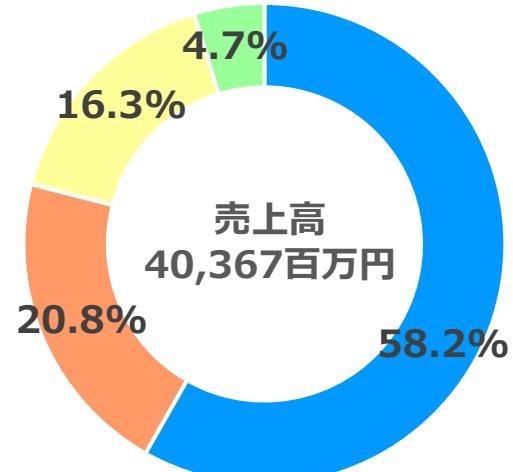
粘接着・バイオマス



ファイン・エレクトロニクス



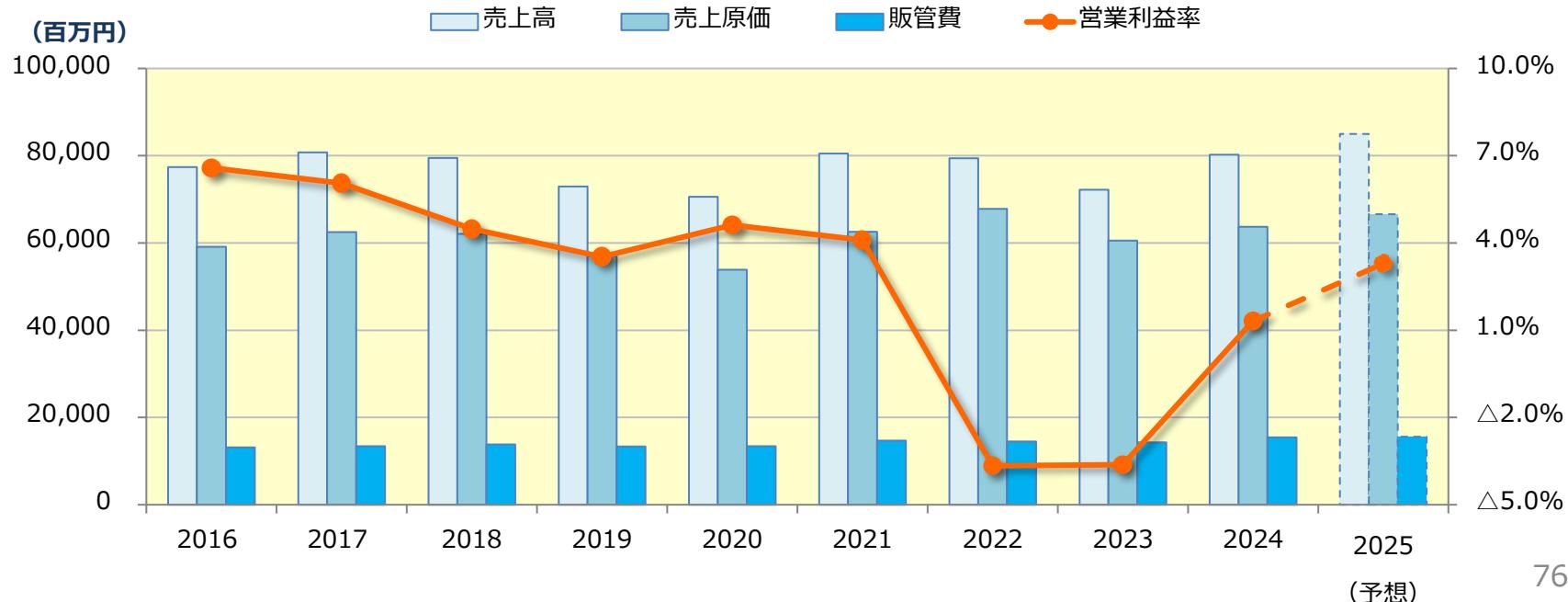
計



# 売上原価・販売管理費推移

(百万円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
売上高	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	80,515	79,431	72,222	80,236	85,000
売上原価	59,111	62,478	62,123	57,014	53,884	62,544	67,859	60,540	63,743	66,600
販管費	13,173	13,410	13,813	13,378	13,431	14,667	14,479	14,299	15,436	15,600
営業利益	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	3,304	△ 2,907	△ 2,617	1,057	2,800
営業利益率	6.6%	6.1%	4.5%	3.5%	4.6%	4.1%	△3.7%	△3.6%	1.3%	3.3%
売上原価率	76.4%	77.3%	78.1%	78.1%	76.4%	77.7%	85.4%	83.8%	79.4%	78.4%
販管費率	17.0%	16.6%	17.4%	18.4%	19.0%	18.2%	18.2%	19.8%	19.2%	18.4%



# ロジン価格の推移

USD/MT



# 株価推移

円



# 株式情報

証券コード	4968
決算期	3月
上場取引所	プライム市場
単元株	100 株
株価	1,127 円 (2025年11月27日15:30時点)
最低所要金額	112,700 円
配当利回り	4.44%
P E R	12.42倍
P B R	0.38 倍
発行済株数	20,652,400 株 (2025年3月末時点)
長期発行体格付	BBB+ : 安定的 (JCR)

**MEMO** 